

KA8270/KA8278/KA8280/KA8288

日本語版ユーザーマニュアル



本ドキュメントについて

本書は ATEN ジャパン株式会社において、KA8270/KA8278/KA8280/KA8288 取り扱いの便宜を図るため、英語版ユーザーマニュアルをローカライズしたドキュメントです。

製品情報、仕様はソフトウェア・ハードウェアを含め、予告無く改変されることがあり、本日本語版ユーザーマニュアルの内容は、必ずしも最新の内容でない場合があります。また製品の不要輻射仕様、各種安全規格、含有物質についての表示も便宜的に翻訳して記載していますが、本書はその内容について保証するものではありません。

製品をお使いになるときは、英語版ユーザーマニュアルにも目を通し、その取扱方法に従い、正しく運用を行ってください。詳細な製品仕様については英語版ユーザーマニュアルの他、製品をお買い上げになった販売店または弊社テクニカルサポート窓口までお問い合わせください。

ATEN ジャパン株式会社

技術部

TEL :03-5615-5811

MAIL :support@atenjapan.jp

2021 年 1 月 4 日

ユーザーの皆様へ

本マニュアルに記載された全ての情報、ドキュメンテーション、および製品仕様は、製造元である ATEN International により、予告無く改変されることがあります。製造元 ATEN International は、製品および本ドキュメントに関して、品質・機能・商品性および特定の目的に対する適合性について、法定上の、明示的または黙示的であるかを問わず、いかなる保証もいたしません。

弊社製品は一般的なコンピュータのメインフレームおよびインターフェースの操作・運用・管理を目的として設計・製造されております。高度な動作信頼性と安全性が求められる用途、例えば軍事使用、大規模輸送システムや交通インフラの制御、原子力発電所、セキュリティシステム、放送システム、医療システム等における可用性への要求を必ずしも満たすものではございません。

キーボード、マウス、モニター、コンピュータ等、弊社製品に接続されるクライアントデバイスは、それぞれベンダの独自技術によって開発・製造されております。そのため、これらの異なるデバイスを接続した結果、予期できない機器同士の相性問題が発生する可能性があります。また、機器の併用により、それぞれオリジナルで持つ機能を全て発揮できない可能性があります。異なる環境・異なる機器の組み合わせにより、機能面での使用制限が必要になる可能性があります。

本製品および付属のソフトウェア、ドキュメントの使用によって発生した装置の破損・データの損失等の損害に関して、直接的・間接的・特殊な事例・付帯的または必然的であるかを問わず、弊社の損害賠償責任は本製品の代金相当額を超えないものとします。

製品をお使いになる際には、製品仕様に沿った適切な環境、特に電源仕様についてはご注意のうえ、正しくお使いください。

ATEN ジャパン製品保証規定

弊社の規定する標準製品保証は、定められた期間内に発生した製品の不具合に対して、すべてを無条件で保証するものではありません。製品保証を受けるためには、この『製品保証規定』およびユーザーマニュアルをお読みになり、記載された使用法および使用上の各種注意をお守りください。

また製品保証期間内であっても、次に挙げる例に該当する場合は製品保証の適用外となり、有償による修理対応といたしますのでご注意ください。

- ◆ 使用上の誤りによるもの
- ◆ 製品ご購入後の輸送中に発生した事故等によるもの
- ◆ ユーザーの手による修理または故意の改造が加えられたもの
- ◆ 購入日の証明ができず、製品に貼付されている銘板のシリアルナンバーも確認できないもの
- ◆ 車両、船舶、鉄道、航空機などに搭載されたもの
- ◆ 火災、地震、水害、落雷、その他天変地異、公害、戦争、テロリズム等の予期しない災害によって故障、破損したもの
- ◆ 日本国外で使用されたもの
- ◆ 日本国外で購入されたもの

【製品保証手順】

弊社の製品保証規定に従いユーザーが保証を申請する場合は、大変お手数ですが、以下の手順に従って弊社宛に連絡を行ってください。

(1) 不具合の確認

製品に不具合の疑いが発見された場合は、購入した販売店または弊社サポート窓口にご連絡の上、製品の状態を確認してください。この際、不具合の確認のため動作検証のご協力をお願いすることがあります。

(2) 本規定に基づく製品保証のご依頼

(1)に従い確認した結果、製品に不具合が認められた場合は、本規定に基づき製品保証対応を行います。製品保証対応のご依頼をされる場合は、RMA 申請フォームの必要項目にご記入の上、『お客様の製品購入日が証明できる書類』を用意して、購入した販売店までご連絡ください。販売店が不明な場合は、弊社までお問い合わせください。

(3) 製品の発送

不具合製品の発送は宅配便などの送付状の控えが残る方法で送付してください。

【製品保証期間】

製品保証期間は通常製品/液晶ディスプレイ搭載製品で異なります。詳細は下記をご覧ください。

①通常製品	製品納品日～30 日	初期不良、新品交換※1
	31 日～3 年間	無償修理
	3 年以上	有償修理※2
②型番 CL から始まる LCD 搭載製品のみ	製品納品日～30 日	初期不良、新品交換※1
	31 日～2 年間	無償修理
	3 年目以降	有償修理※2

※1…製品購入日から30日以内に確認された不具合は初期不良とし、新品交換を行います。初期不良の場合の送料は往復弊社にて負担いたします。

※2…有償修理の金額は別途製品を購入された販売店までお問い合わせください。

※ケーブル類、その他レールキット等のアクセサリ類は初期不良の際の新品交換のみ、承ります。

※EOL（生産終了）が確定した製品については、初期不良であっても無償修理対応とさせていただきます。また EOL 製品の修理に関して、上記無償修理期間中であっても、部材調達の都合等により修理不可になる可能性がございます。そのような場合には、機能同等品による良品交換のご対応となる可能性がございます。また、EOL 製品の型番や、修理可否、後継機種については、随時情報更新を行っておりますので、弊社 Web ページにて最新情報をご確認ください。

※製品保証期間の延長や故障時の代替品などの保証オプションについては、弊社 Web ページをご確認ください。

【補足】

- ・本規定は ATEN 製品に限り適用します。
- ・ケーブル類は初期不良対応に準じます。
- ・初期不良による新品交換の場合は、ATEN より発送した代替品の到着後、5 営業日以内に不具合品を弊社宛に返却してください。返却の予定期日が守られない場合は弊社から督促を行います。それでも係わらず不具合品が返却されない場合は、代替機相当金を販売代理店経由でご請求いたします。
- ・ラベルの汚損や剥がれなどにより製品のシリアルナンバーが確認できない場合は、すべて有償修理とさせていただきます。

【免責事項】

1. 弊社製品は映像関連システムやコンピューターのメインフレームおよびインターフェースの操作・運用・管理を目的として設計・製造されております。しかし、使用環境等によってはその機能が制限されることがあります。弊社では、ご購入前に弊社製品をお試しいただける「評価機貸出サービス」を、無償でご提供しております。評価機貸出サービスに関するお問い合わせは、弊社代理店または弊社 Web サイト(<http://www.aten.com/jp/ja/>)内の「お問い合わせ」フォームをご利用ください。
2. キーボード、マウス、モニター、コンピューター等、弊社製品に接続されるクライアントデバイスは、それぞれベンダの独自技術によって開発・製造されております。そのため、これらの異なるデバイスを接続した結果、予想できない機器同士の相性問題が発生する可能性があります。また、機器の併用により、それぞれオリジナルで持つ機能を全て発揮できない可能性があります。異なる環境・異なる機器の組み合わせにより、機能面での使用制限が必要になる可能性があります。
3. 他社製品のKVMスイッチ、キーボード・マウスコンバーター、キーボード・マウスエミュレーター、KVM エクステンダー等との組み合わせはサポート対象外となりますが、お客様で自己検証の上であれば、使用を制限するものではありません。
4. 製品に対しての保証は、日本国内で使用されている場合のみ対象とさせていただきます。
5. 製品やサービスについてご不明な点がある場合は、弊社技術部門までお問い合わせください。

製品についてのお問い合わせ

製品の仕様や使い方についてのお問い合わせは、下記窓口または製品をお買い上げになった販売店までご連絡ください。

購入前のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 営業部 TEL:03-5615-5810 MAIL:sales@atenjapan.jp
購入後のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 技術部 TEL :03-5615-5811 MAIL :support@atenjapan.jp

目次

ユーザーの皆様へ	i
ATEN ジャパン製品保証規定	ii
製品についてのお問い合わせ	v
EMC 情報	4
RoHS.....	4
安全にお使い頂くために.....	5
全般	5
ラックマウント	7
同梱品.....	8
本マニュアルについて.....	9
マニュアル表記について.....	10
第 1 章 はじめに.....	11
概要.....	11
特長.....	12
システム要件.....	13
コンソール.....	13
製品各部名称	13
フロントパネル	13
リアパネル.....	14
第 2 章 セットアップ方法.....	15
概要.....	15
セットアップの前に.....	15
マウント方法.....	16
ラックへのマウント.....	16
壁へのマウント.....	17
オプションのラックマウント方法	17
VE-RMK1U	17
セットアップ方法.....	18
ホットプラグ	19
電源 OFF と再起動	20
第 3 章 操作方法.....	21

概要.....	21
ログイン.....	21
コンソールステーション経由での IP-KVM スイッチのアップグレード	24
ダッシュボード	27
画面におけるアイテム	28
ダッシュボードの操作.....	30
モニターユニットのオプション	31
デバイス/パネルアレイの表示と管理.....	33
デバイスのオプション	33
パネルアレイのオプション	34
デバイス/管理パネルアレイビュー	36
デバイスビューの追加	37
別デバイスビューの追加.....	38
デバイスビューの編集	39
デバイスビューの削除	39
カスケード接続におけるマルチスクリーンコントロール	40
ディスプレイの選択.....	41
カスケード接続の停止.....	41
第 4 章 デバイス管理.....	42
概要.....	42
デバイス一覧.....	43
デバイスの追加.....	44
接続情報の変更	45
第 5 章 システム設定	46
概要.....	46
ユーザー管理.....	47
ユーザーとグループ.....	47
ユーザーやグループの管理(割り当て)	53
デバイスの割り当て.....	56
システム管理.....	59
システム情報	59
ネットワーク	60
ANMS	63
セキュリティ	67
カスケード.....	70
メンテナンス.....	72

メインファームウェアのアップグレード	72
ファームウェアアップグレードのリカバリー	74
バックアップ/リストア	74
設定のプッシュ/プル	78
ターミナル	80
システム操作	81
ユーザーのクイック設定	83
第 6 章 ツールバーのインターフェース.....	85
概要.....	85
リモート操作の終了.....	86
ビデオ設定	87
マクロ	89
詳細設定	96
付録.....	103
製品仕様.....	103
トラブルシューティング	105
操作全般	105
マウス.....	106
バーチャルメディア	107
パネルアレイモード	107
対応 KVM スイッチ	108
リモートアクセス/監視に関する制限事項	108

EMC 情報

FCC(連邦通信委員会)電波干渉声明

本製品は、FCC(米国連邦通信委員会)規則の Part15 に準拠したデジタル装置 Class A の制限事項を満たして設計され、検査されています。この制限事項は、商業目的の使用において、有害な障害が発生しないよう、基準に沿った保護を提供する為のものです。この操作マニュアルに従わずに使用した場合、本製品から発生するラジオ周波数により、他の通信機器に影響を与える可能性があります。また、本製品を一般住宅地域で使用した場合、有害な電波障害を引き起こす可能性もあります。その際には、ユーザーご自身の負担で、その障害を取り除いてください。

本製品は、FCC(米国連邦通信委員会)規則の Part15 のデジタル装置 Class A の規定に準拠しています。動作は次の 2 つの条件を前提としています。(1)本製品による有害な干渉が発生しない。(2)本製品は、予想外の動作を引き起こす可能性のある干渉を含め、受信した干渉をすべて受け入れる。

FCC による注意:本コンプライアンスに対する責任者による明確な承認を得ていない変更または改良を行った場合は、ユーザーの本装置を操作する権利を無効とします。

警告:本製品をご家庭で使用した場合、電波干渉を引き起こす可能性があります。

RoHS

本製品は『電気・電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限に関する欧州議会および理事会指令』、通称 RoHS 指令に準拠しております。



安全にお使い頂くために

全般

- ◆ 本製品は、屋内での使用に限ります。
- ◆ 製品に同梱されるドキュメントは全てお読みください。またドキュメント類は全て保存してください。また、弊社 Web サイトに掲載のオンラインユーザーマニュアルもご確認ください。
- ◆ 製品に関する注意・説明に従って取り扱ってください。
- ◆ 落下による事故・製品の破損を防ぐため、設置場所は不安定な面(台車、簡易的なスタンドやテーブル等)を避けるようにしてください。
- ◆ 製品が水に濡れるおそれのあるような場所で使用しないでください。
- ◆ 製品は熱源の近く、またはその熱源の上などで使用しないでください。
- ◆ 製品のケースには必要に応じて通気口が設けられています。通気口のある製品は、安定した運用を行うため、また製品の過熱を防ぐために、開口部を塞いだり覆ったりしないでください。
- ◆ 製品をベッドやソファ、ラグなどの柔らかいものの上に置かないでください。開口部が塞がれ、適切な通気が確保できずに製品が過熱するおそれがあります。
- ◆ 製品にいかなる液体もかからないようにしてください。
- ◆ 電気回路が過負荷状態に陥らないようにしてください。電気機器を回路に接続する前に、電源の上限を把握しておき、これを超えないように注意してください。回路の電気仕様を常に見直して、危険な条件を生じさせていないかどうか、また、すでに危険な条件がそろっていないかどうかを確認してください。電気回路の過負荷は火災や機器破損の原因となります。
- ◆ 電源プラグを電源コンセントから抜く場合は、乾いた雑巾でプラグ周りのホコリを掃除してください。液体やスプレー式のクリーナーは使用しないでください。
- ◆ 製品はラベルに記載されたタイプの電源に接続して運用してください。電源タイプについて不明な場合は、購入された販売店もしくは電気事業者にお問い合わせください。
- ◆ お使いの装置への損傷を避けるためにも、すべての装置を適切に接地するようにしてください。
- ◆ 電源コードやケーブルの上に物を置かないでください。人が通行するような場所を避けて電源コードを設置してください。
- ◆ システムケーブルや電源ケーブルは丁寧に取り扱いってください。これらのケーブル類の上には何も置かないようにしてください。
- ◆ ホットプラグ対応パワーサプライの取り付け、または取り外しを行う場合は、以下の注意事項に従ってください。
 - 電源ケーブルを接続する前に、パワーサプライのセットアップを行ってください。
 - パワーサプライを取り外す前に電源ケーブルを抜いてください。

- お使いのシステムが複数のパワーサプライをお使いである場合、パワーサプライからすべての電源ケーブルを抜いてお使いのシステムから切り離してください。
- ◆ 危険な電源ポイントへの接触やショートによって、発火したり感電したりするおそれがありますので、キャビネットの空きスロット等に押し込まないようにしてください。
- ◆ 装置をご自身で修理せず、ご不明な点がございましたら技術サポートまでご相談ください。
- ◆ 下記の現象が発生した場合、コンセントからはずして技術サポートに修理を依頼してください。
 - 電源コードが破損した。
 - 装置の上に液体をこぼした。
 - 装置が雨や水にぬれた。
 - 装置を誤って落下させた、ないしはキャビネットが破損した。
 - 装置の動作に異変が見られる。(修理が必要です)
 - 製品マニュアルに従って操作しているにもかかわらず、正常に動作しない。
- ◆ 修理が必要となる故障が発生するおそれがありますので、製品マニュアルに従って操作してください。
- ◆ 本製品をスタッキングする場合、ラックにロックする場合、フレームにネジ止めする場合やその他類似の方法で設置を行う場合には、製品を確実に固定するための安全装置が追加で必要になることがあります。
- ◆ Cat5e/6 ケーブルは、電気ケーブル、変圧器、照明器具といった電波障害の発生源となりうる物から、できるだけ遠ざけて配線するようにしてください。また、これらのケーブルは、電線用導管に接続したり、電灯設備の上に置いたりしないようにしてください。

ラックマウント

- ◆ ラックでの作業を始める前に、スタビライザーがラックに固定され床に接していること、また、ラック全体が安定した場所に置かれていることを確認してください。作業する前に、シングルラックにフロントとサイドのスタビライザーを取り付けるか、結合された複数のラックにフロントスタビライザーを取り付けてください。
- ◆ ラックには下から上に向かって、一番重いアイテムから順番に取り付けてください。
- ◆ デバイスを拡張する前にラックが水平で安定していることを確認してください。
- ◆ ラックに供給する AC 電源の分岐回路が過剰供給にならないようご注意ください。ラック全体の電源負荷は分岐回路の 80%を越えないように設定する必要があります。
- ◆ ラックにマウントされたデバイスは、電源タップも含め、すべて正しく接地されていることを確認してください。
- ◆ ラックへの通気を十分に確保してください。
- ◆ 本製品で定められている保管温度を超えないように、ラックが設置されている場所の室温を調節してください。
- ◆ ラックに設置されているデバイスが動作している際に、デバイスを踏んだりデバイスによじ登ったりしないでください。

同梱品

KA8270/KA8278/KA8280/KA8288 製品パッケージには下記のアイテムが同梱されています。

- ◆ KA8270/KA8278/KA8280/KA8288 KVM over IP コンソールステーション ×1
- ◆ 電源アダプター ×1
- ◆ 電源ケーブル ×1
- ◆ ラックマウントキット ×1
- ◆ フットパッド(4pcs) ×1
- ◆ クイックスタートガイド* ×1

上記のアイテムがそろっているかご確認ください。万が一、欠品または破損品があった場合はお買い上げになった販売店までご連絡ください。

本ユーザーマニュアルをよくお読みいただき、正しい使用法により、本製品および接続する機器を安全にお使いください。

* 本マニュアルの公開後に、製品仕様が追加される場合があります。最新版は弊社 Web サイトにアクセスしてご確認ください。

本マニュアルについて

このユーザーマニュアルは、KA8270/KA8278/KA8280/KA8288 に関する情報や使用法について説明しており、取り付け・セットアップ方法、操作方法のすべてを提供します。マニュアルは下記のとおり構成されています。

第1章 はじめに:KA8270/KA8278/KA8280/KA8288 を紹介します。特長、機能概要、および製品各部名称について説明します。

第2章 ハードウェアセットアップ:基本的なハードウェアセットアップの手順と、基本的な操作方法について説明します。

第3章 基本操作:KA8270/KA8278/KA8280/KA8288 の機能概要および操作方法について説明します。

第4章 デバイス管理:KA8270/KA8278/KA8280/KA8288 へ IP-KVM スイッチを追加したり、ここから IP-KVM スイッチを削除したりする方法について説明します。

第5章 システム設定:システム設定とクイックユーザーインターフェースについて説明します。システム設定には、全般、ANMS、AD/LDAP、RADIUS、ファームウェアアップグレード、バックアップ/リストアが含まれます。

第6章 ツールバーのインターフェース:接続ポートにアクセスした際に使用できるツールバーインターフェースについて説明します。

付録 製品の仕様および関連する技術情報や操作方法について説明します。

マニュアル表記について

[] 入力するキーを示します。例えば[Enter]はエンターキーを押します。複数のキーを同時に押す場合は、[Ctrl] + [Alt]のように表記してあります。

1. 番号が付けられている場合は、番号に従って操作を行ってください。



◆印は情報を示しますが、作業の手順を意味するものではありません。



矢印は操作の手順を示します。例えば Start → Run はスタートメニューを開き、Run を選択することを意味します。



重要な情報を示しています。

※本マニュアルに記載されている商品名・会社名等は、各社の商標ならびに登録商標です。

第1章 はじめに

概要

KVM over IP コンソールステーション (KA8270/KA8278/KA8280/KA8288) は、複数の ATEN 製 IP-KVM スイッチ*に接続されているすべてのサーバーに対するアクセス・監視・制御を、PC やラップトップの代わりにリモートから実現できる独立型コンソールです。本製品にはセキュリティ対策が施されているため、お使いのシステムをウイルス感染の脅威から保護します。また、各種データ暗号化に対応しているため、データの安全性も確保されます。このため、すばやいアクセスと強固なセキュリティが求められる、オフィス、ネットワークオペレーションセンター (NOC) コントロールルーム、放送局、スタジオなどに最適な製品です。

KVM over IP コンソールステーションは USB マウス/キーボード用に各 1 ポート、また、バーチャルメディア用に 2 ポートの USB ポートを搭載しています。また、モニター用ポートはモデルごとに異なり、VGA ビデオ 1 出力 (KA8270)、VGA1 出力および HDMI ビデオ各 1 出力 (KA8278)、HDMI ビデオ 1 出力 (KA8280)、HDMI ビデオ 2 出力 (KA8288) の各モデルをラインナップしています。解像度は、最大 1920×1200 @60Hz に対応しています。また、KA8278 と KA8288 は 2 出力のビデオに対応しているため、ユーザーは 1 組のキーボードとマウスでディスプレイ 2 台を操作してマルチタスクを実現できます。

KVM over IP コンソールステーションは、ATEN 製 KN シリーズの IP-KVM スイッチと互換性があります。IP-KVM スイッチは、ローカルとリモートの両方のユーザーが 1 箇所のコンソールから複数の PC/サーバーに対して TCP/IP 経由でアクセスや操作を行うことができる製品です (IP-KVM スイッチの詳細は、弊社 Web サイトにてご確認ください)。

さらに、パネルアレイモードを搭載し、管理者は最大 64 台のサーバーのビデオ出力を同時に監視することが可能です。この機能により、すべてのポートを同時にプレビューできるため、複数のポートを頻繁にモニタリングする製造現場や監視目的にも適しています。

KVM over IP コンソールステーションは、デスクの上に置いたり壁に取り付けたりして、お使いいただけます。また、ラックに 0U サイズでマウントできるデザインのため、ラックのリアへの取り付けも可能です。さらに、多言語 GUI を搭載しているため、デバイス管理やユーザープロファイル

のカスタマイズといった作業に加えて、大規模システムのセットアップにも手間が掛からないのが特長です。

注意: 互換性のある IP-KVM スイッチ: KN1132V、KN2116VA、KN4116VA、KN2132VA、KN4132VA、KN4164V、KN8132V、KN8164V、KN2124VA、KN4124VA、KN2140VA、KN4140VA

本コンソールステーションと併用する上記の IP-KVM スイッチには、v1.6.151 以降のファームウェアバージョンのインストールが必要です。

特長

- ◆ 複数の ATEN 製 IP-KVM スイッチ*に接続されている全サーバーに対するアクセス・監視・制御を、PC やラップトップの代わりにリモートから実現できる独立型コンソール*
- ◆ ウイルスの脅威に対するセキュリティ対策およびデータ保護
- ◆ シングルサインオン - 複数の ATEN 製 IP-KVM スイッチの管理・統合
- ◆ 高精細な FPGA グラフィックプロセッサ - 1920×1200 フル HD 対応
- ◆ KA8270: VGA ビデオ出力×1 KA8280: HDMI ビデオ出力×1
- ◆ KA8278: VGA×1、HDMI ビデオ出力×1 KA8288: HDMI ビデオ出力×2
 - 1 組のキーボードとマウスでディスプレイ 2 台を操作してマルチタスクを実現
- ◆ パネルアレイモード - 管理者は最大 64 台のサーバーのビデオ出力を 1 画面で同時に監視可能
- ◆ マルチスクリーンコントロール機能 - 1 組のキーボードとマウスを使用して、2 つのコンソールステーション間で最大 4 つの画面を制御可能
- ◆ バーチャルメディア (仮想メディア) 対応
- ◆ 付属の標準マウントキットで壁への取付けが可能
- ◆ ラックのリア側へのマウントが可能な省スペース 0U デザイン
- ◆ 多言語 GUI 搭載 - アクセス・管理、ユーザープロファイルのカスタマイズや大規模な展開を簡単に行えるフレキシブルな構成
- ◆ USB スマートカード対応
- ◆ 別ユニット (KA8270/KA8278/KA8280/KA8288) とのカスケード接続によってマルチスクリーンコントロール機能に対応

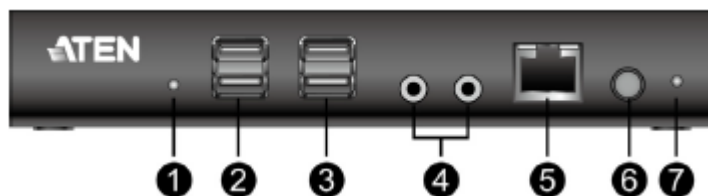
システム要件

コンソール

- ◆ (KA8270 の場合)VGA モニター×1
(KA8280 または KA8288 の場合)HDMI モニター×1
(KA8278 の場合)VGA または HDMI モニター×1
- ◆ USB マウス×1
- ◆ USB キーボード×1
- ◆ マイクおよびスピーカー

製品各部名称

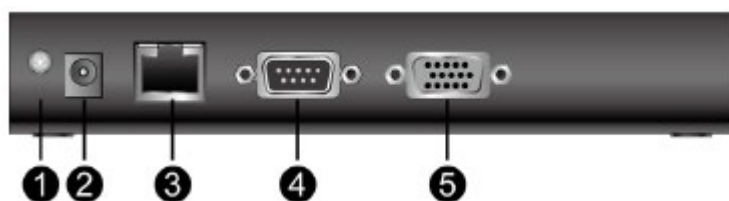
フロントパネル



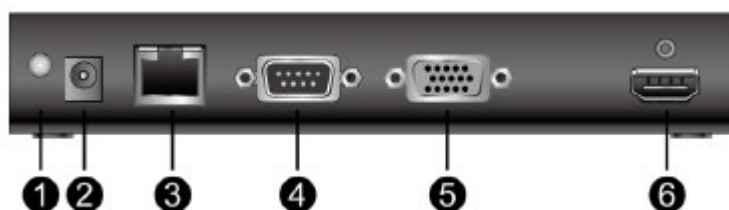
No.	名称
1	リセットスイッチ
2	USB ポート(周辺機器用)
3	USB ポート(キーボードおよびマウス用)
4	オーディオポート
5	カスケードポート
6	電源ボタン (1 回目に押すとビデオ出力を停止し、2 回目に押すとビデオ出力を再開します)
7	電源 LED (電源 ON の場合はブルーに、ビデオ出力が OFF の場合はオレンジに点灯)

リアパネル

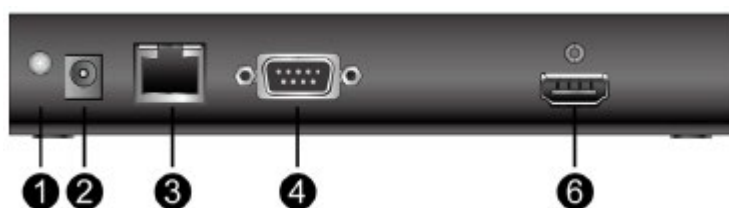
KA8270



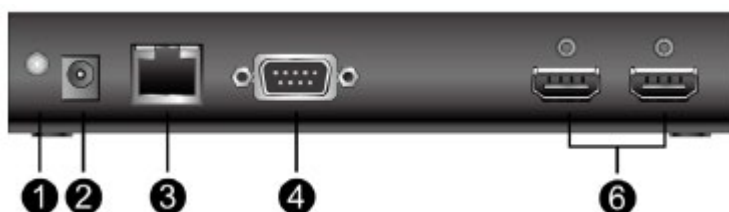
KA8278



KA8280



KA8288



No.	名称
1	グラウンドターミナル
2	電源ジャック
3	LAN ポート
4	COM ポート
5	VGA ポート(KA8270 および KA8278 のみ)
6	HDMI ポート(KA8278、KA8280、KA8288 のみ)

第2章 セットアップ方法

概要

本章では、KA8270/KA8278/KA8280/KA8288 の各種マウント方法、および単体で使用了場合のハードウェア接続方法の概要について説明します。

セットアップの前に



1. 機器の設置に際し重要な情報を p.5 に記載しています。作業の前に、必ず目を通してください。
2. 今から接続する装置すべての電源がオフになっていることを確認してください。コンピューターにキーボード起動機能がついている場合は、ここから電源ケーブルも抜いてください。

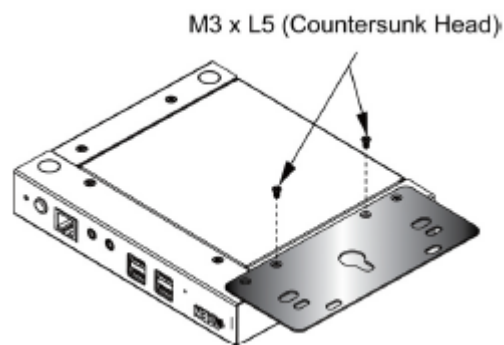
マウント方法

KA8270/KA8278/KA8280/KA8288 はラックや壁にマウントしてお使いいただけます。以下のセクションでは、それぞれのマウント方法について説明します。

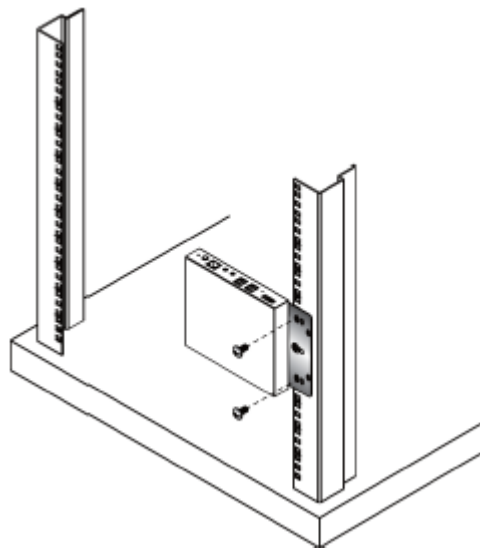
ラックへのマウント

KA8270/KA8278/KA8280/KA8288 は、ラックのリア側にマウントできるよう設計されています。ラックにマウントした場合に使用するスペースは 0U ですので、場所を取りません。

1. 製品本体の底面にあるネジを 2 箇所取り外したら、これらのネジを使って、下図のように、製品本体の底面にマウント用ブラケットを取り付けてください。



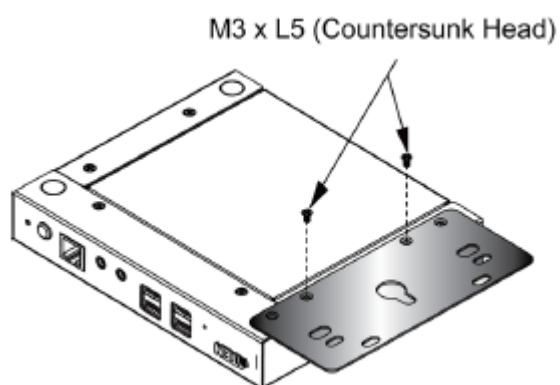
2. ラックの任意の場所に、マウント用ブラケットをネジ止めしてください。



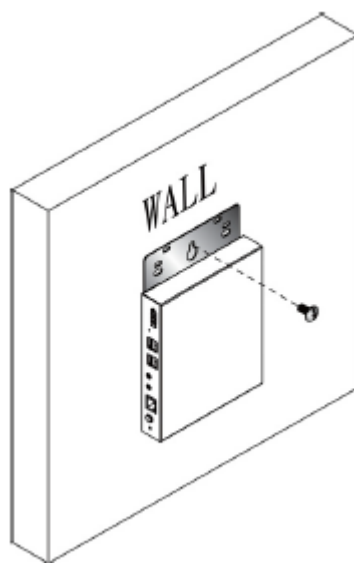
注意: ユニートをラックに固定するネジは製品パッケージに同梱されていないので、別途ご用意ください。

壁へのマウント

1. 製品本体の底面にあるネジを2箇所取り外したら、これらのネジを使って、下図のように、製品本体の底面にマウント用ブラケットを取り付けてください。



2. マウント用ブラケットの中央の穴を使って、製品本体を壁面に取り付けてください。



オプションのラックマウント方法

VE-RMK1U

KA8270/KA8278/KA8280/KA8288 の製品本体をラックまたは壁に対してマウントする際、前のセクションで説明した標準的な方法以外に、ラックマウントキット「VE-RMK1U」を使用することもできます。詳細は、VE-RMK1U のユーザーマニュアルにてご確認ください。

セットアップ方法

KA8270/KA8278/KA8280/KA8288 をお使いになる場合は、次のページにある接続図を参考にしながら、下記の手順に従って作業を行ってください(KA8278 を例にとって説明します)。

注意: 接続図における番号は手順に対応しています。

1. お使いになる USB マウス、USB キーボード、マイク、およびスピーカーの各コネクタを、それぞれ KA8270/KA8278/KA8280/KA8288 のフロントパネルにある対応ポートに接続してください。各ポートは、接続デバイスがわかるようにカラーリングとアイコンで識別できるようになっています。
2. お使いになるモニターを、KA8270/KA8278/KA8280/KA8288 のリアパネルにある VGA ポートまたは HDMI ポートに接続してください。

注意:

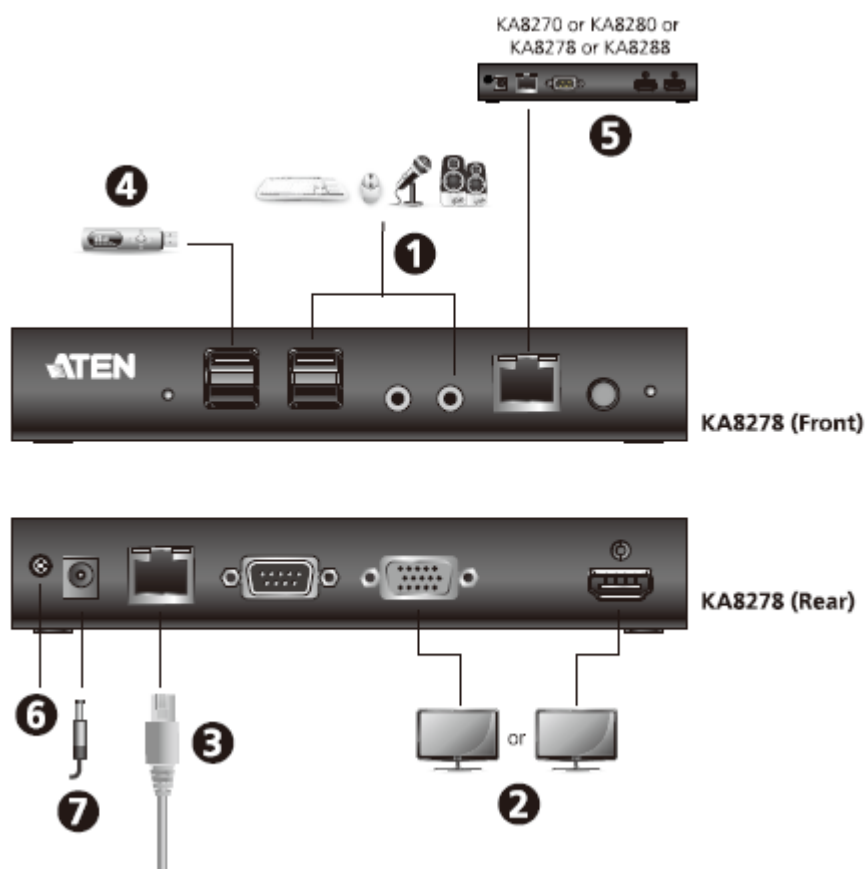
1. 各製品で対応するビデオ出力はそれぞれ、KA8270 では VGA ビデオが 1 出力、KA8278 では VGA ビデオと HDMI ビデオが各 1 出力、KA8280 では HDMI ビデオが 1 出力、KA8288 では HDMI ビデオが 2 出力となっております。
2. 2 出力のビデオに対応したモデル(KA8278 および KA8288)では、内側のビデオインターフェース(例:KA8278 の VGA ビデオインターフェース)はメインのディスプレイとなり、外側のビデオインターフェースがサブのディスプレイとなります。
3. メインのディスプレイにはログイン画面が表示されますので、この画面からログインしてください。

3. ネットワークに接続されているイーサネットケーブルを KA8270/KA8278/KA8280/KA8288 の LAN ポートに接続してください。
4. (オプション)USB ドライブを、製品本体のフロントパネルにある専用 USB ポートに接続してください。
5. (オプション)複数のユニットをカスケード接続する場合は、Cat5e ケーブルの片方の端をフロントパネルのカスケードポートに接続し、もう片方の端を別ユニットの LAN ポートに接続してください。2 台目以降のユニットは、1 台目のインターネット接続を使用しますが、各ユニットの設

定と制御は分かれています。

注意: ループ発生の原因となるため、カスケードポートにネットワークスイッチを接続しないでください。

6. (オプション) 接地線で、KA8270/KA8278/KA8280/KA8288 のリアパネルにあるグランドターミナルを適切な接地物に接続してください。
7. 電源アダプターのプラグ部分を AC 電源に接続したら、このアダプターのケーブル部分を KA8270/KA8278/KA8280/KA8288 の電源ジャックに接続してください。



ホットプラグ

KA8270/KA8278/KA8280/KA8288 はホットプラグに対応しています。このため、デバイスの取り外しや取り付けは、ポートからケーブルを抜き差しするだけでよく、製品本体の電源を切る必要はありません。

電源 OFF と再起動

KA8270/KA8278/KA8280/KA8288 の電源を切る必要がある場合は、シャットダウン機能 (p.84 参照) を使って電源を OFF にし、電源アダプターを抜いて 30 秒ほど経過してから、再度 AC 電源に接続してください。

第3章 操作方法

概要

KA8270/KA8278/KA8280/KA8288 は、複数の KVM スイッチをモニタリングする中央制御ステーションとして使用することができます。利用可能なインターフェースは、この後のセクションで説明します。

ログイン

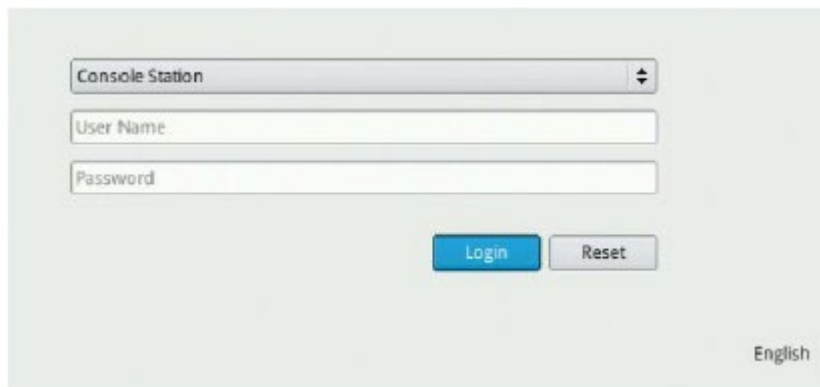
KA8270/KA8278/KA8280/KA8288 は、複数の KVM スイッチをモニタリングする中央制御ステーションとして使用することができます。ログインには、システムで有効なユーザーネームとパスワードの入力が必要です。

ログインに使用したユーザーネームやパスワードが間違っていると、認証システムから「Invalid Username or Password」(ユーザーネームまたはパスワードが間違っています)または「Login Failed」(ログイン失敗)のメッセージが返ってきます。このようなメッセージが表示された場合は、正しいユーザーネームとパスワードを使って再度ログインしてください。

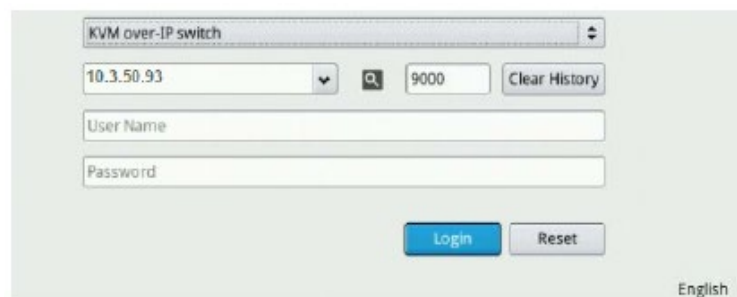
注意: ログインに連続で失敗し、その回数が再試行可能回数を超えると、タイムアウト機能が作動します。このような場合、システムに再度ログインするにはタイムアウトで指定された期間、待機しなければなりません。詳細についてはp.67「ログイン失敗」を参照してください。

KA8270/KA8278/KA8280/KA8288 は次のモードに対応しています。

- a) KVM over IP コンソールステーションモード: KVM デバイスを統合管理するためにコンソールステーションへとログインします。



b) KVM デバイスモード:KVM デバイスに直接ログインします。



-
- 注意:**
1. ログインには KVM の認証情報を使用してください。
 2. 「Clear History」(履歴の消去) ボタンをクリックすると、すべての接続デバイスの履歴を削除します。
-

ログインするには、次の手順に従って操作してください。

1. KVM デバイスに直接ログインしたい場合は、ドロップダウンメニューから「KVM over-IP Switch」(IP-KVM スイッチ)を選択し、デバイスの IP アドレスとポート番号を指定して、次の手順に進んでください。

または、

KVM over IP コンソールステーションにログインする場合は、ドロップダウンメニューから「Console Station」(コンソールステーション)を選択して、次の手順に進んでください。

-
- 注意:**
1. 別の方法として、虫眼鏡のアイコンをマウスで操作することで、同一 LAN 上にあるデバイスのアドレスを検索することもできます。
 2. または、デバイス一覧のドロップダウンメニューをクリックしてください。デバイス一覧には、デバイスのログイン履歴が表示されます。また、履歴は、ターミナルコマンドで消去することができます。詳細については、p.80「ターミナル」を参照してください。
-

2. ユーザーネームとパスワードを入力してください(デフォルトでは、ユーザーネームは「administrator」、パスワードは「password」にそれぞれ設定されています)。そうしたら、「Login」(ログイン)をクリックして、ログインしてください。

注意: セキュリティ対策として、ユーザーネームとパスワードを変更してください(p.47「ユーザーとグループ」参照)。

3. (オプション)右下に言語オプションがあります(デフォルトでは英語が表示されています)。そのオプションをクリックして、インターフェースで使用する言語を選択してください。

ログインに成功すると、コンソールステーションのダッシュボードが表示されます。操作方法については、p.27「ダッシュボード」を参照してください。

コンソールステーション経由での IP-KVM スイッチのアップグレード

新しいバージョンのファームウェアが利用可能になると、ファイルが弊社 Web サイトに公開されダウンロードできるようになります。このサイトを定期的にチェックして、IP-KVM スイッチの最新のパッケージを入手してください。

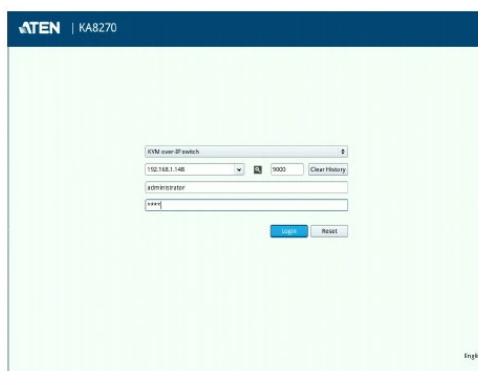
IP-KVM スイッチのファームウェアをアップグレードする場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. アップグレードに使用するファームウェアを、お使いのコンピュータにダウンロードしてください。ダウンロードは、1) 製品ページ内の「サポートとダウンロード」メニューからアクセス、または、2) ホームページのトップページの右上に表示される（表示画面のサイズによっては画面左上に三本線のアイコンが表示されるので、それをクリックすると表示される）「サポートとダウンロード」→「ダウンロード」→「他の製品の資料をダウンロードする」に型番を入力して検索する方法で行えます。

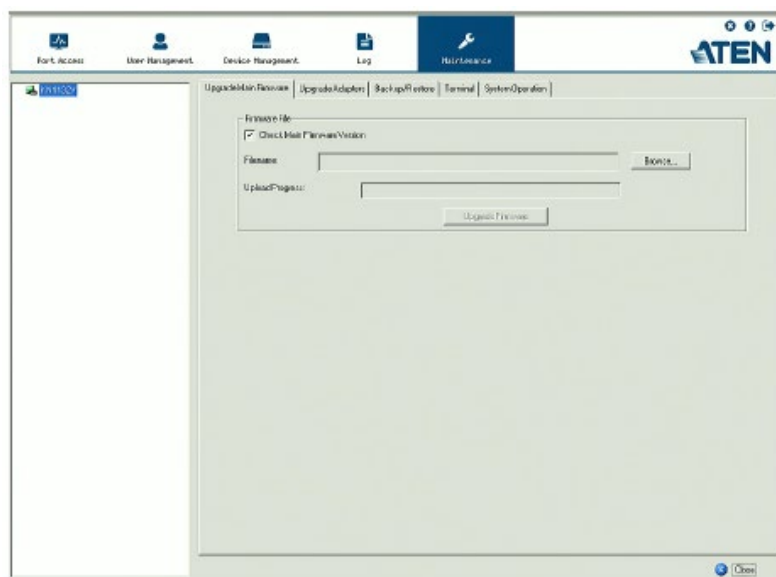
2. 手順 1 でダウンロードしたファイルを USB フラッシュメモリに転送してください。

注意： USBフラッシュメモリは、FATファイルシステムでフォーマットされたものをお使いください。

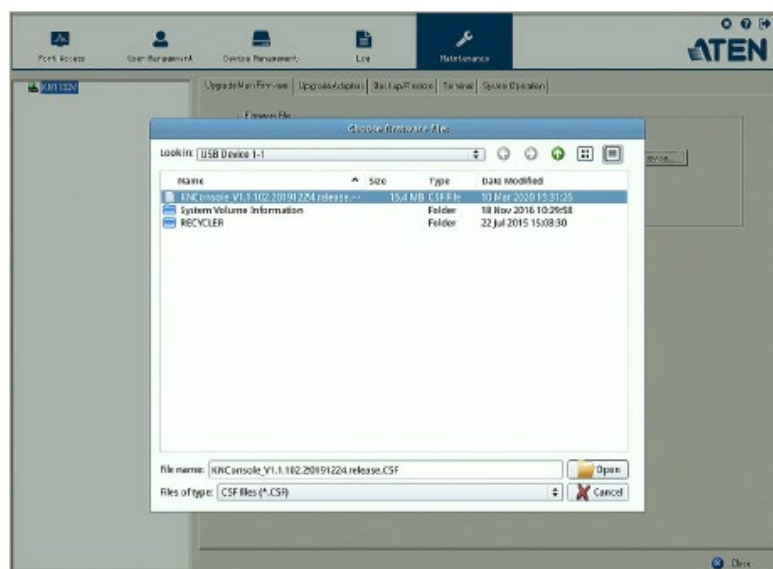
3. コンピュータから USB フラッシュメモリを取り外したら、コンソールステーションの USB ポートに挿入してください。
4. コンソールステーションのログイン画面で、ドロップダウンメニューから「KVM over-IP Switch」（IP-KVM スイッチ）を選択し、デバイスの IP アドレスとポート番号を指定してください。そうしたら、IP-KVM スイッチのユーザーネームとパスワードを入力し、「Login」（ログイン）をクリックして、ログインしてください。



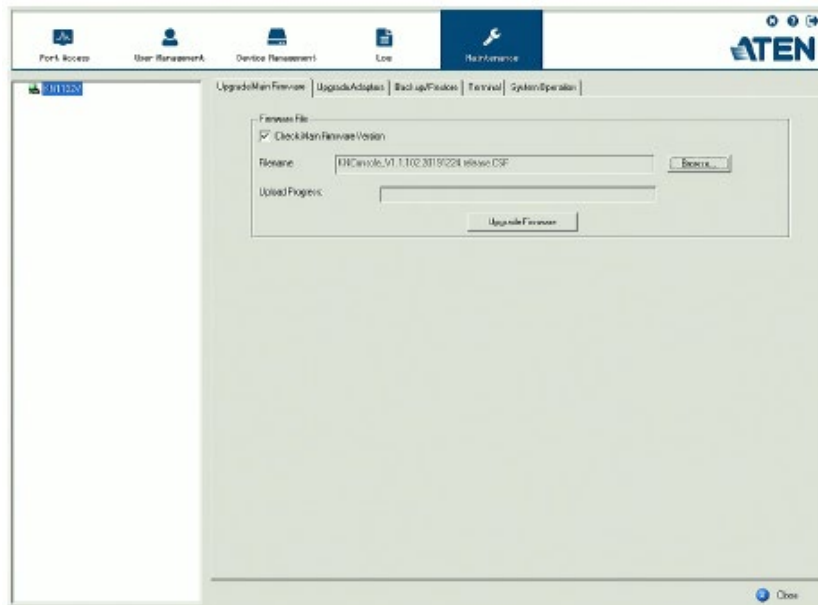
5. IP-KVMスイッチのローカルコンソールのGUIメイン画面から、「Maintenance」(メンテナンス)に進んで、「Upgrade Main Firmware」(メインファームウェアのアップグレード)を選択してください。



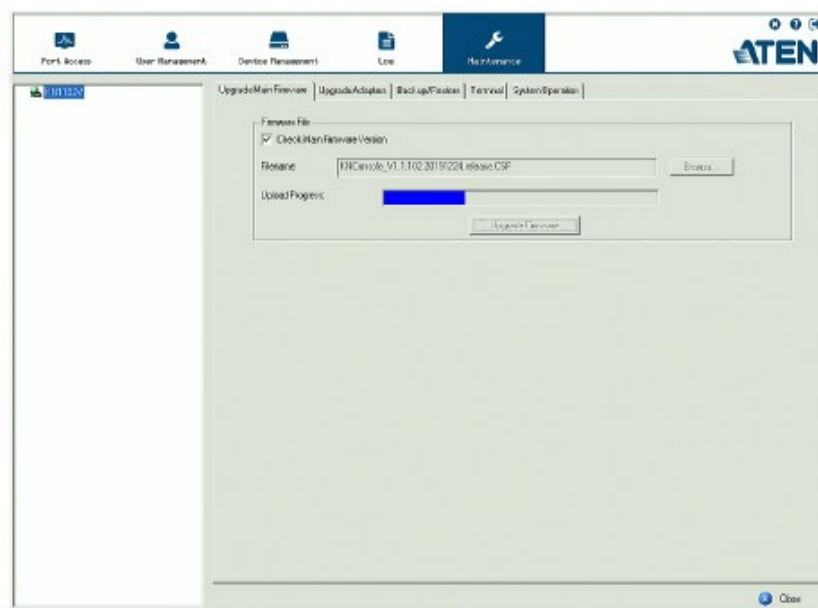
6. 「Browse」(参照)をクリックして、ダウンロード済みのファームウェアファイルを選択したら、「Open」(開く)をクリックしてください。



7. 「Upgrade Firmware」(ファームウェアのアップグレード)をクリックしてください。

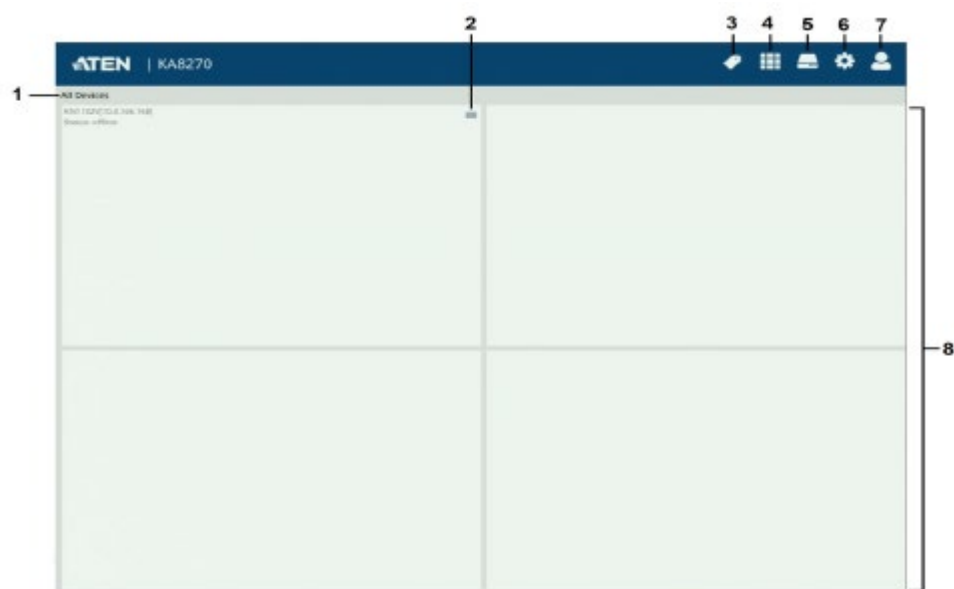


8. ファームウェアのアップグレードが完了すると、IP-KVM スイッチが再起動します。



ダッシュボード

ログインに成功すると、KA8270/KA8278/KA8280/KA8288 のユーザーインターフェースにはダッシュボードが表示されます。



注意: この画面はアドミニストレーターでログインした場合の画面です。ユーザーのタイプと操作権限によっては、これらすべてのアイテムが画面に表示されるとは限りません。

画面におけるアイテム

ダッシュボード画面におけるアイテムは、下表のとおりです。

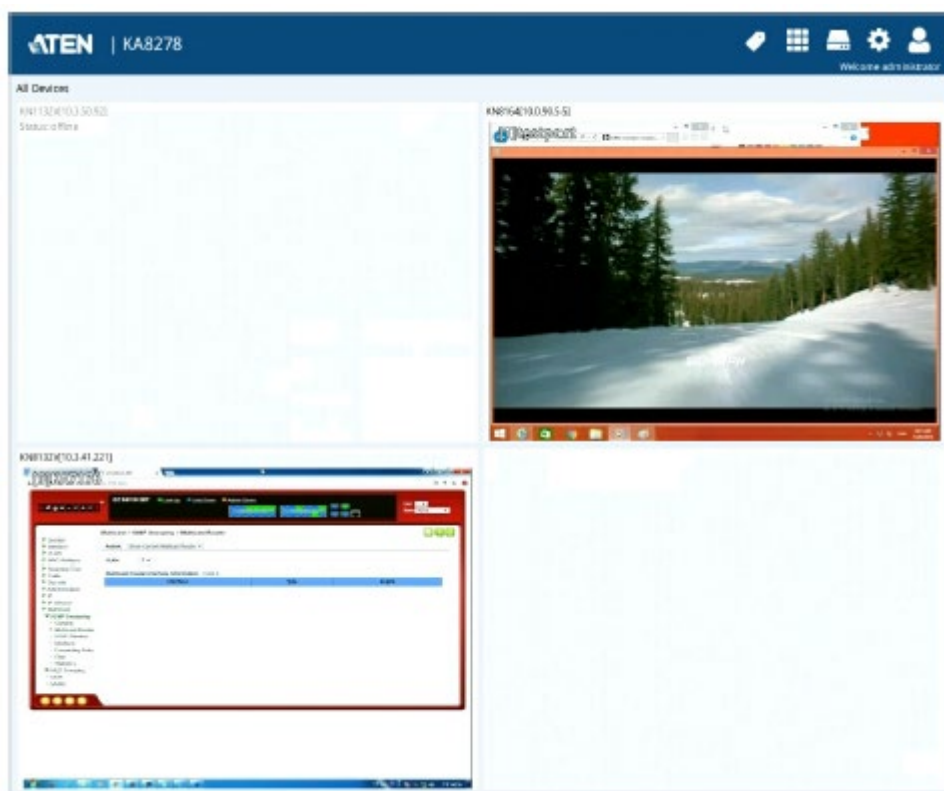
No.	名称	説明
1	All Devices (すべてのデバイス)	この部分をクリックすると、「Reconnect All Devices」(すべてのデバイスに再接続)のオプションが表示されます。このオプションをクリックすると、再接続を実行します。
2	個別モニター オプション	割り当てたディスプレイに表示するポートを選択したり、GUI を開いたり、IP-KVM スイッチとの接続を切断したりすることができます。 IP-KVM スイッチとの接続が切断されている場合は、「 Reconnect 」(再接続)をクリックして、IP-KVM スイッチをコンソールステーションに再接続することもできます。 例えば、メインとサブのディスプレイを使用している場合 (KA8278 または KA8288)、メインディスプレイとサブディスプレイで、それぞれ別のポートを表示するよう選択することができます。詳細については p.31「メイン/サブディスプレイ」を参照してください。
3	管理デバイスビュー	このビューを使うと、監視中の IP-KVM スイッチを別のデバイスビューに表示することができます。
4	管理パネルアレイビュー	このビューを使うと、IP-KVM スイッチに接続されているポートを同時に表示することができます。これらのポートを別のグループに分類し、選択されたグループだけでポートを同時表示することもできます。
5	デバイス管理	管理権限のあるユーザーは、コンソールステーションからデバイスを追加したり、ここからデバイスを削除したりすることができます。

(表は次のページに続きます)

No.	名称	説明
6	システム設定	管理権限のあるユーザーが次の操作を行うことができます。 ◆ ユーザーやグループの管理 ◆ デバイス情報の表示 ◆ ネットワーク、高度なネットワーク管理 (ANMS)、セキュリティの各種設定 ◆ ファームウェアアップグレードの管理 ◆ システムのバックアップ/リストア ◆ 設定のプッシュ/プル (別デバイスからの設定読み込みや別デバイスへの設定適用) ◆ ターミナルへのアクセス ◆ 工場出荷時におけるデフォルト設定へのシステムリセット
7	アドミニストレータ	ここでは、ユーザーが次の操作を行うことができます。 1. パスワードの変更 2. ユーザー設定の定義 3. ログアウト 4. システムの再起動 5. システムのシャットダウン 6. コンソールステーションに関する概要の表示
8	利用可能な IP-KVM スイッチ モニター	ここでは、利用可能な IP-KVM スイッチを一目で確認することができます。各モニターは、そのデバイスの接続ポートを連続して循環します。

ダッシュボードの操作

コンソールステーションのダッシュボードでは、通常、接続デバイスがモニターユニットに表示されます。各ユニットは接続デバイスに対応しています。また、ユニットは、すべての接続ポートの間を連続して循環します。

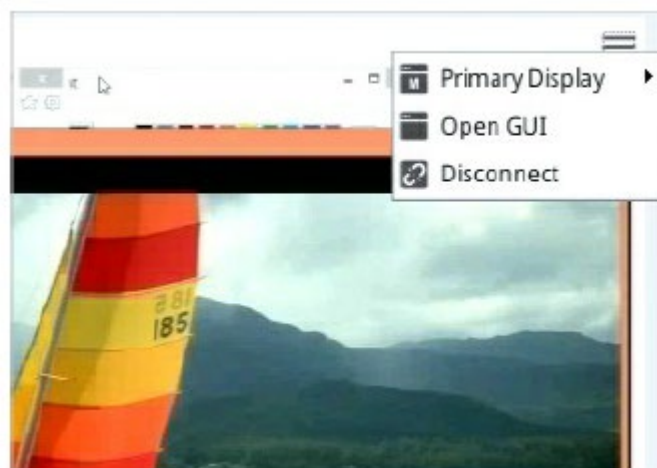


モニターをダブルクリックすると、ポートの画面が表示されます。

特定のデバイスの個々のモニターオプションにアクセスするには、対象となるモニターユニットの上にマウスカーソルを動かしてください。そうすると、各ユニットの右上にメニューアイコン (≡) が表示されます。

モニターユニットのオプション

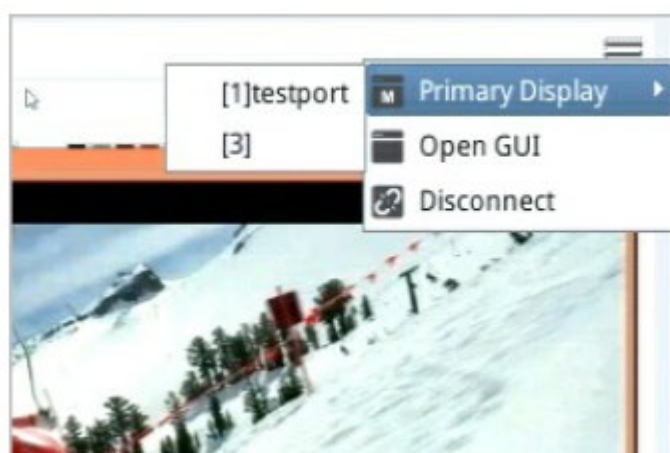
メニューアイコンをクリックすると、利用可能なオプションが表示されます。



メイン/サブディスプレイ

お使いのコンソールステーションの型番(ディスプレイのポート数)に応じて、メニューにはメインディスプレイのオプションだけが表示されたり、メインディスプレイのオプションとサブディスプレイのオプションの両方が表示されたりします。メインまたはサブディスプレイでポートを表示するには、次の手順に従って操作してください。

1. (メインまたはサブの)ディスプレイの上にマウスカーソルを移動させてください。



2. クリックして、ポートを選択してください。選択されたディスプレイには、ポートの画面が表示されます。また、お使いのキーボードとマウスは、このポートに接続されたサーバーの操作もできるようになります。

サーバーを操作できるよう、KVM over IP コンソールステーションのインターフェースには、リモート操作に有用なツールバーが提供されています。詳細については、p.85「ツールバーのインターフェース」を参照してください。

GUI

IP-KVM スイッチの GUI を使用する場合は、「Open GUI」(GUI を開く)をクリックして選択してください。GUI 操作に関する詳細は、お使いの KVM スイッチのユーザーマニュアルを参照してください。

注意: コンソールステーションを介して IP-KVM スイッチのファームウェアをアップグレードするには、p.24「コンソールステーション経由での IP-KVM スイッチのアップグレード」を参照してください。

切断

「Disconnect」(切断)をクリックすると、その KVM スイッチとの接続を切断します。

再接続

「Reconnect」(再接続)をクリックすると、オフラインの KVM スイッチに再接続します。

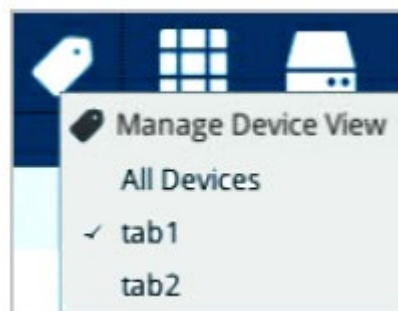
デバイス/パネルアレイの表示と管理

管理デバイスビューを使うと、現在監視している IP-KVM スイッチを別のグループに分けたり、ダッシュボードに表示するデバイスグループを選択したりすることができます。

また、管理パネルアレイビューを使うと、利用可能なポートを別のグループに分けたり、パネルアレイ画面に表示するパネルアレイグループを選択したりすることができます。

デバイスのオプション

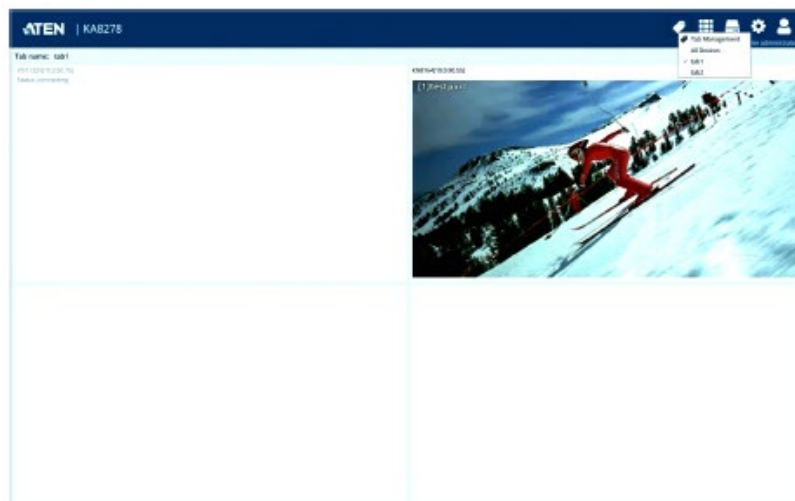
デバイスアイコンをクリックすると、デバイスのオプションを表示します。



オプション	説明
Manage Device View (管理デバイスビュー)	このオプションをクリックすると、カスタムデバイスビューの追加や削除、または編集を行います。
All Devices (すべてのデバイス)	このオプションをクリックすると、接続されている IP-KVM スイッチをすべてダッシュボードに表示します。
作成済みのデバイスビュー	作成済みのデバイスビューを選択すると、IP-KVM スイッチをダッシュボードに表示します。

デバイスの表示

下図は、ダッシュボードに表示されたデバイスにIP-KVMスイッチを表示した場合の例です(デバイス 1 が選択されています)。



パネルアレイのオプション

パネルアレイのアイコンをクリックすると、パネルアレイのオプションを表示します。

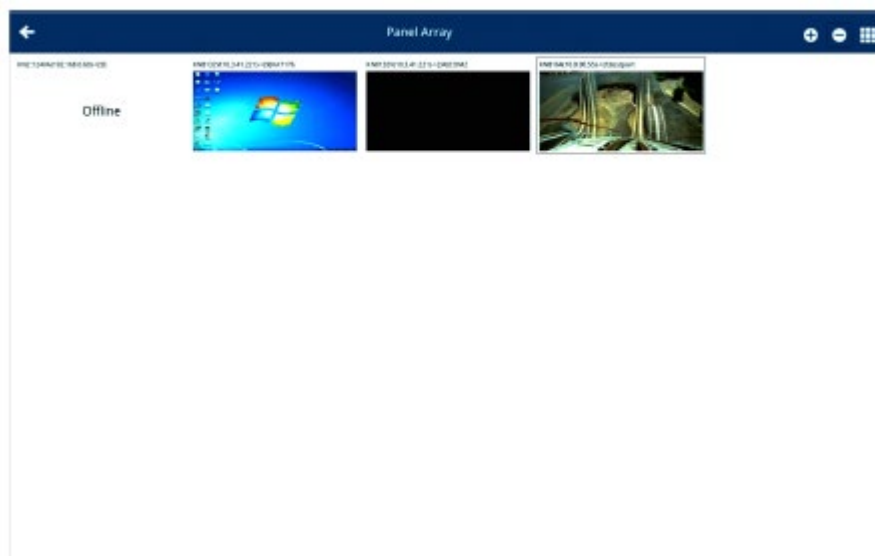


オプション	説明
Manage Panel Array View (管理パネルアレイビュー)	このオプションをクリックすると、パネルアレイ(グループ)の追加や削除、または編集を行います。パネルアレイビューは最大で16個作成することができます。
All Devices (すべてのデバイス)	このIP-KVMスイッチに接続されているポートをすべてパネルアレイ画面に表示します。
作成済みのパネルアレイ	作成済みのパネルアレイを選択してください。そうすると、このIP-KVMスイッチにパネルアレイで接続されているポートを、すべてパネルアレイ画面に表示します。

注意: オーディオには対応していません。

パネルアレイ表示

下図は、接続されている IP-KVM スイッチのポートをパネルアレイで表示した場合の例です (アレイ 1 が選択されています)。



「+」アイコンを押すと、サイズを小さくすることで表示するデバイスポートの数を増やします (最大 64 ポート)。また、「-」アイコンを押すと、サイズを大きくすることで表示するデバイスポートの数を減らします。

下図は、サイズを小さくして表示した場合の例です。



パネルアレイのアイコンは、パネルアレイ画面の右上にも表示されます。これをクリックすると、表示するアレイを選択したり、すべてのデバイスポートを表示したりすることができます。



左向きの矢印をクリックすると、ダッシュボードに戻ります。

デバイス/管理パネルアレイビュー

デバイスまたはパネルアレイのアイコンをクリックすると、それに対応したオプションが表示されます。

これらのアイコンは似ているため、管理デバイスビューのアイコンを例にとって説明します。

下図のような画面で、「Manage Device View」(管理デバイスビュー) (または「Manage Panel Array View」(管理パネルアレイビュー))をクリックしてください。

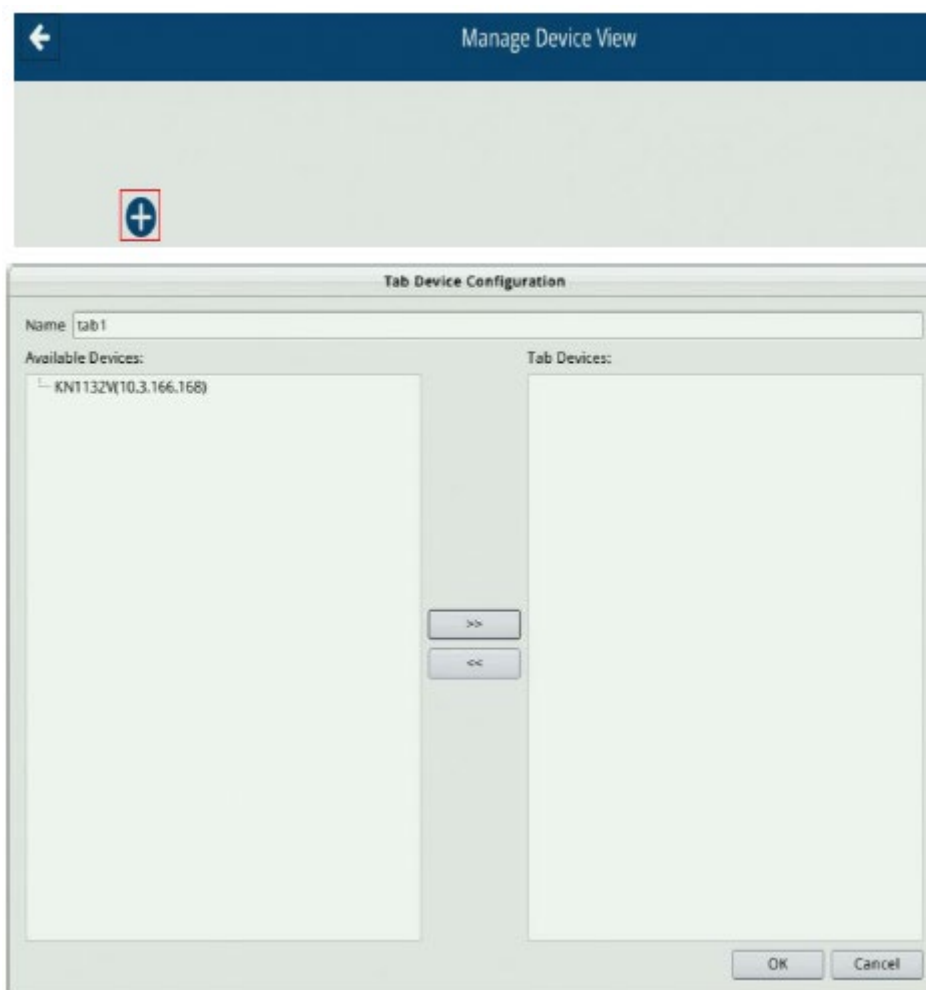


この画面からは、デバイスビューの追加、編集、削除を行うことができます。

デバイスビューの追加

1. デバイスビューを追加するには、「+」アイコンをクリックしてください。そうすると、新しいウィンドウが表示されます。

注意: パネルアレイビューは最大で 16 個作成することができます。

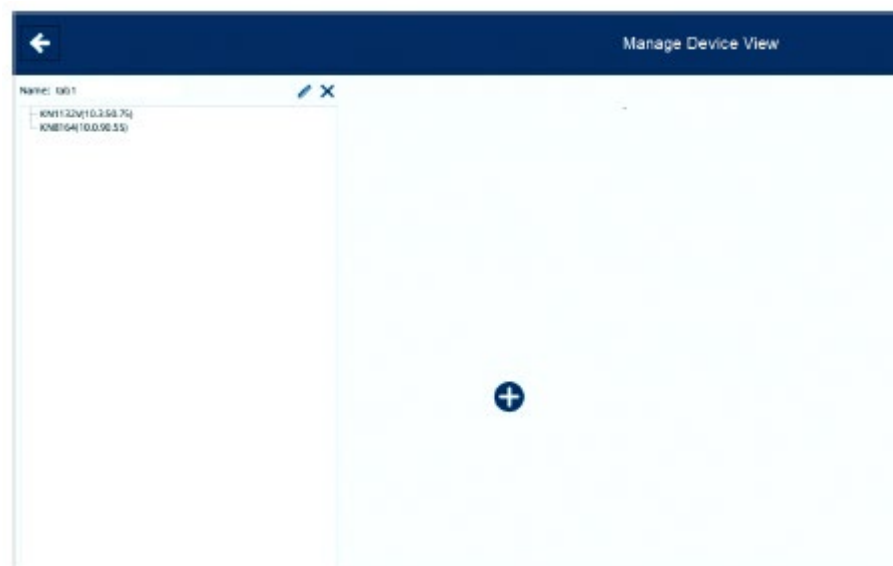


2. 新規デバイスに付ける名前を入力してください。

注意: 最大 32 文字で設定してください。

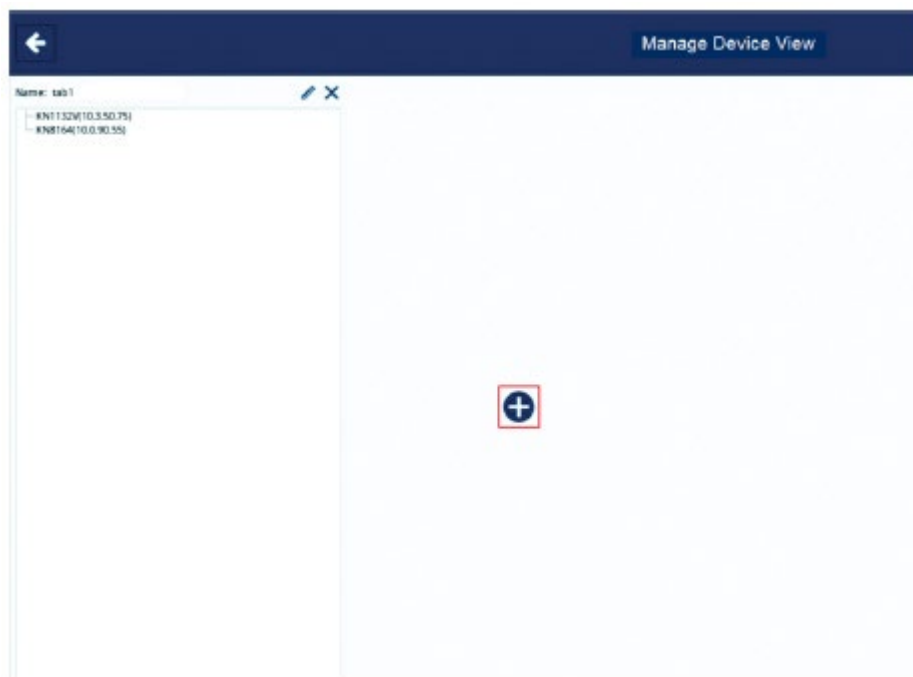
3. このデバイスビューに追加したいデバイスをクリックしたら、右矢印のボタン(>>)をクリックしてください。
4. 操作が完了したら「OK」ボタンをクリックしてください。そうすると、新規作成されたデバイス

ビューが表示されます。



別デバイスビューの追加

別のデバイスビューを追加したい場合は、「+」アイコンをもう一度クリックしてから、「デバイスビューの追加」セクションで説明された手順に従って操作してください。



デバイスビューの編集

デバイスビューを編集する場合は、デバイスビューの隣にあるペンのアイコンをクリックしてください。



そうすると、「デバイスビューの追加」セクションにあるような「Tab Device Configuration」(タブデバイスの設定)ウィンドウが表示されます。

名前を編集し、左矢印のボタン(<<)または右矢印のボタン(>>)ボタンでデバイスを移動させ、操作が完了したら「OK」をクリックしてください。

注意: 最大 32 文字で設定してください。

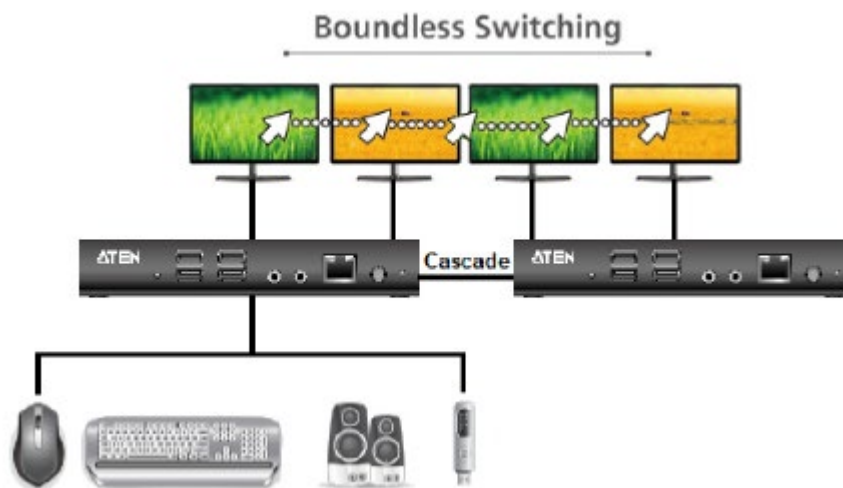
デバイスビューの削除

デバイスビューを削除する場合は、デバイスビューの隣にある「×」アイコンをクリックしてください。



カスケード接続におけるマルチスクリーンコントロール

この機能を使うと、ユーザーは画面間でカーソルを動かすだけで、2 台のコンソールステーションを切り替えて操作することができます。マルチスクリーンコントロールでは、カスケード接続されたユニットが親機から操作されるため、個別に操作されることはありません。マルチスクリーンコントロールを動作させるためには、キーボードとマウスを親機に接続する必要があります。

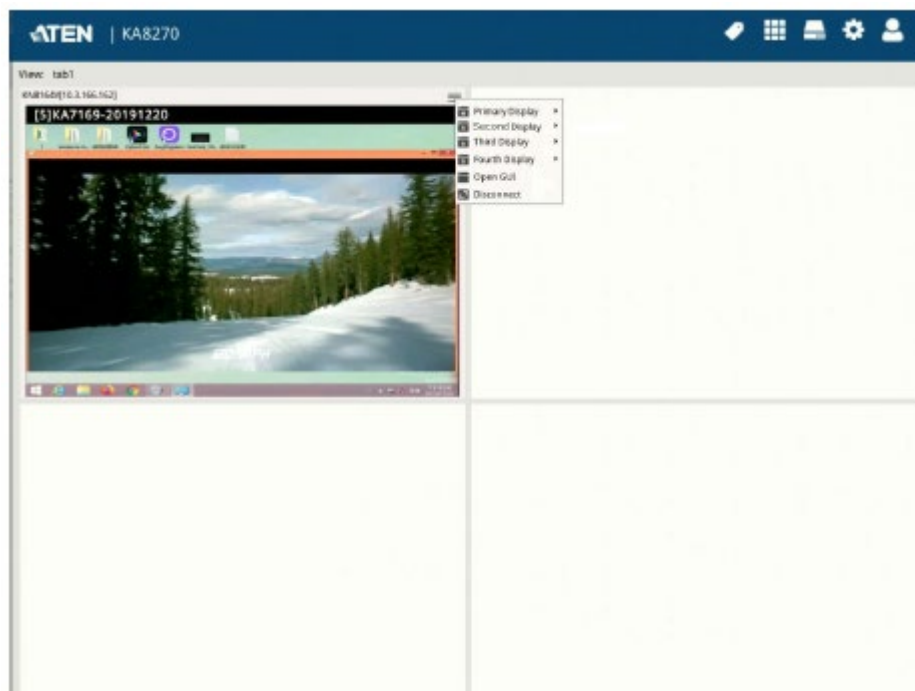


- 注意:**
1. マルチスクリーンコントロール機能は、2 台のコンソールステーションで最大 4 台のディスプレイを使うことができます。
 2. 両方のコンソールステーションが同一ネットワークセグメントにあれば、マルチスクリーンコントロール機能は動作しますので、2 台のコンソールステーションをカスケード接続する必要はありません。
 3. オーディオ出力は、ソース画面があるコンソールステーションから送信されます。例えば、オーディオソースが 3 台目のディスプレイから出力されている場合、オーディオ出力はカスケード接続されたユニットから送信されます。
 4. バーチャルメディア機能は、ソース画面があるコンソールステーションでサポートされます。例えば、カスケード接続されているユニットに USB ストレージがマウントされている場合、そのユニットでバーチャルメディア機能を利用することができます。

マルチスクリーンコントロール機能のセットアップ方法については、p.70「カスケード」を参照してください。

ディスプレイの選択

ディスプレイを選択するには、メニューアイコン(≡)をクリックしてください。そうすると、下図のような画面が表示されます。



カスケード接続の停止

カスケード接続を停止するには、カスケード接続された画面にマウスカーソルを動かし、「Stop Cascading」(カスケード接続の停止)をクリックしてください。

注意: カスケード接続が切断されている場合、または、電源が OFF になっているユニットがある場合、接続または電源が回復すると、マルチスクリーンコントロール機能は過去の設定に戻ります。

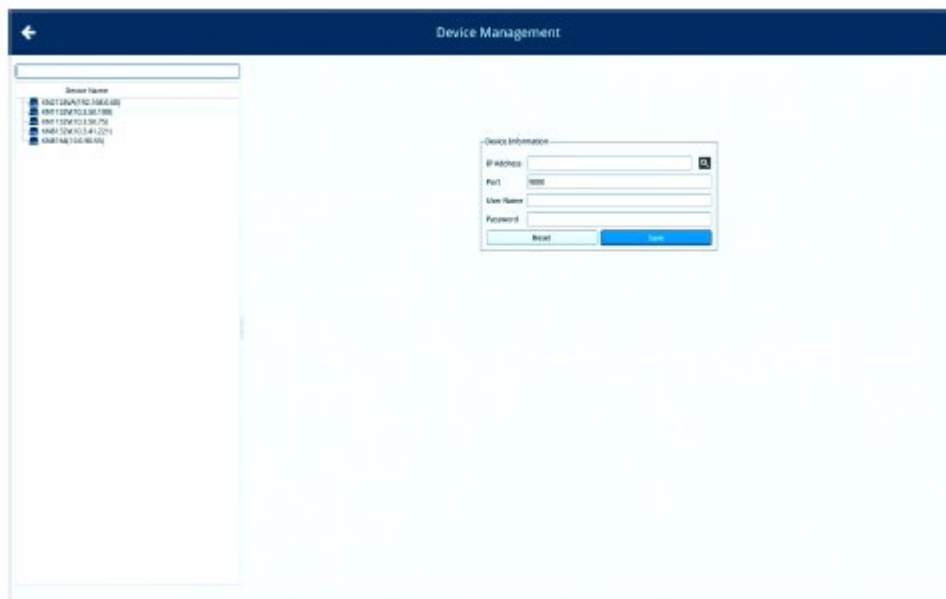
第4章 デバイス管理

概要

デバイス管理機能を使うと、管理権限のあるユーザーが、コンソールステーションにデバイスを追加したり、ここからデバイスを削除したりすることができます。KVM over IP コンソールステーションは、最大 256 台の IP-KVM スイッチを管理することができます。また、最大 16 台のデバイスのスナップショットを表示することも可能です。

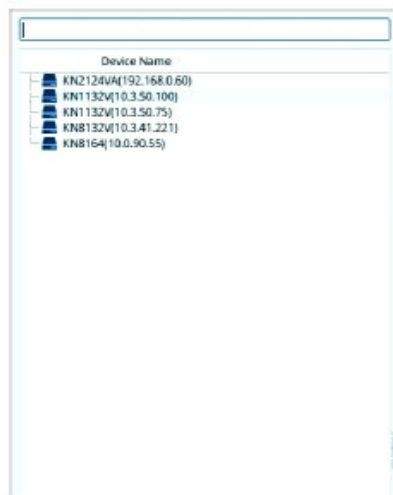


このデバイス管理アイコンをクリックすると、メイン画面に遷移します。



デバイス一覧

デバイス管理画面の左側にある機能は、デバイス一覧です。



検索

画面上部のテキストボックスは、検索機能として使用します。検索したいデバイスの IP アドレスをこのテキストボックスに入力して、対象のデバイスを探してください。

デバイスの削除

デバイスを一覧から削除したい場合は、そのデバイスの上にマウスカursorを動かしてください。下図に示すとおり、「×」印のアイコンが表示されます。



「×」アイコンをクリックすると、そのデバイスを削除します。このとき、システム側から下図のような確認ダイアログが表示され、処理を続行するかどうかの選択が求められます。



処理を続行する場合は「Yes」(はい)を、キャンセルする場合は「No」(いいえ)を、それぞれクリックしてください。

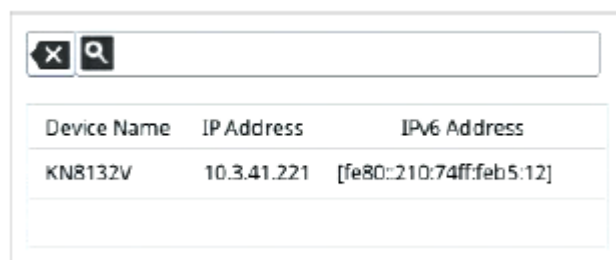
デバイスの追加

デバイス管理画面の中央にある機能を使うと、デバイスをシステムに追加することができます。



The image shows a 'Device Information' form with the following fields: IP Address (with a search icon), Port (set to 9000), User Name, and Password. At the bottom are 'Reset' and 'Save' buttons.

検索ボタン(虫眼鏡のアイコン)の上にマウスカースルを動かしてください。そうすると、同一 LAN 上にある KVM コントロールユニットの一覧が下図のように表示されます。



The image shows a table with a search bar at the top and a list of devices below. The table has columns for Device Name, IP Address, and IPv6 Address.

Device Name	IP Address	IPv6 Address
KN8132V	10.3.41.221	[fe80::210:74ff:feb5:12]

目的のデバイスを選択するか、IP アドレスがわかる場合は、その IP アドレスを入力してください。そうしたら、ユーザーネームとパスワードを入力して、「Save」(保存)をクリックし、デバイスをシステムに追加してください。

-
- 注意:**
1. IP-KVM スイッチのアクセス権限は、ここで入力されたユーザーネームとパスワードによって確定します。
 2. KVM スイッチのすべてのアクセス権限を獲得したい場合は、フルアクセス権限を持ったユーザーのユーザーネームとパスワードを使用してください。
 3. 「Device Name」(デバイス名)または「IP Address」(IP アドレス)の部分をクリックして目的のデバイスを選択した場合、表示される名前は IPv4 アドレスとなります。そうでない場合は、「IPv6 Address」(IPv6 アドレス)の部分をクリックした際に、IPv6 アドレスが表示されます。
 4. IP-KVM スイッチを CC2000 にも追加し、CC2000 側で「Disable Other
-

Authentication」(その他の権限を無効にする)の項目が設定されている場合、KVM over IP コンソールステーションは、この KVM スイッチにアクセスしたり、操作したりすることができなくなります。

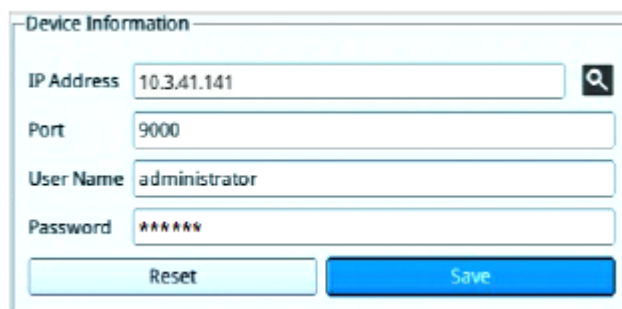
情報を再入力したい場合は、「Reset」(リセット)をクリックしてください。

システムはデバイスへの接続を試みます。成功すると、デバイスはデバイス一覧に表示されます。

接続情報の変更

KVM over IP コンソールステーションに接続されたデバイスのアクセス権限を変更したい場合は、目的のアクセス権限が付与されたユーザーに変更する必要があります。下記の手順に従って操作を行ってください。

1. デバイス一覧から、デバイスを選択してください。
2. 「Device Information」(デバイス情報)セクションの設定項目を編集してください。



The image shows a 'Device Information' window with the following fields and values:

Field	Value
IP Address	10.3.41.141
Port	9000
User Name	administrator
Password	*****

At the bottom, there are two buttons: 'Reset' and 'Save'.

3. 「Save」(保存)をクリックして、情報を更新してください。
4. KVM over IP コンソールステーションからログアウトしてから再ログインし、設定/表示/アクセス権限が更新されているか確認してください。

第5章 システム設定

概要

システム設定機能を使うと、管理権限のあるユーザーが、次の操作を行うことができます。

- ◆ ユーザーやグループの管理
- ◆ デバイス情報の表示
- ◆ ネットワーク、高度なネットワーク管理 (ANMS)、セキュリティの各種設定、ファームウェアアップグレードの管理
- ◆ システムのバックアップ/リストア
- ◆ 設定のプッシュ/プル (別デバイスからの設定読み込みや別デバイスへの設定適用)
- ◆ ターミナルへのアクセス
- ◆ 工場出荷時におけるデフォルト設定へのシステムリセット



このシステム設定アイコンをクリックすると、メイン画面に遷移します。



この画面は、左側のサイドメニューと、右側の情報/設定パネルから構成されています。

デフォルトでは、上図のようにシステム設定を入力する画面の上にデバイス情報が表示されません。

サイドメニューの項目に「+」や「-」のマークが付いている場合は、これらの項目にサブメニューがあることを表しています。「+」マークをクリックすると、メインメニューを展開してサブメニューを表示します。また、「-」マークをクリックすると、メニューを折りたたんでサブメニューを非表示にします。

ユーザー管理

このセクションでは、ユーザーやグループの管理を行うことができます。

ユーザーとグループ

グループ機能を使うと、アドミニストレーターはユーザーやデバイスを簡単かつ効率的に管理することができます。デバイスへのアクセス権限は、グループに所属しているメンバーすべてに適用されますので、アドミニストレーターはグループに権限を設定するだけでよく、個々のユーザーに権限を設定する必要はありません。複数のグループを定義することで、特定のデバイスへのアクセス権限を一部のユーザーに与えて、他のユーザーにはこれらのデバイスにアクセスさせないように設定することも可能です。

KVM over IP コンソールステーションには、「ユーザータイプ」によって決定する権限が2種類あります。ユーザータイプはユーザー作成時に選択します。ユーザータイプの説明は下表のとおりです。

ユーザータイプ	役割
Administrator (アドミニストレーター)	デバイスへのアクセスおよび管理、ユーザー/グループの管理、セットアップ全般の定義、個人の作業環境の設定が可能です。
User (ユーザー)	権限のあるデバイスへのアクセス、および個人の作業環境の設定が可能です。

左側のサイドメニューの「User Management」(ユーザー管理)セクションにある「Users」(ユーザー)または「Groups」(グループ)をクリックすると、それぞれの設定画面に繊維します。



ユーザー画面

Name	Description	Status	Modify	Delete
1 administrator		Active		

[Add User](#) [Copy User](#)

グループ画面

Name	Description	Status	Modify	Delete
1 test				

[Add Group](#) [Copy Group](#)

ユーザーの追加

ユーザーとグループの管理方法は似ているため、ユーザー管理の操作方法を例にとって説明します。

-
- 注意:**
1. ユーザーは最大 64 名作成することができます。
 2. グループは最大 16 グループ作成することができます。
-

ユーザーを追加するには、次の手順に従って操作を行ってください。

1. 画面の右上にある「Add User」(ユーザーの追加)をクリックしてください。

Name	Description	Status	Modify	Delete
1 administrator		Active		

[Add User](#) [Copy User](#)

そうすると、下図のような画面が表示されます。

BackSave

GeneralGroup MembersPrivilege

User Information

Username

Password

Confirm Password

Description

Role

☒ Administrator

☐ User

Status

☐ Disable account

☐ User must change password at next login

☐ User cannot change password

2. 必要な項目に適切な値を入力してください。各項目の詳細は下表のとおりです。

項目	説明
Username (ユーザーネーム)	「Account Policy」(アカウントポリシー)の設定に応じて、1～32 文字で設定してください。(p.68「アカウントポリシー」参照)
Password (パスワード)	「Account Policy」(アカウントポリシー)の設定に応じて、0～32 文字で設定してください。(p.68「アカウントポリシー」参照)
Confirm Password (パスワード確認)	パスワードの誤設定を防ぐために、パスワードを再入力してください。ここにはパスワードの欄に入力された文字列と同じものを入力してください。
Description(説明)	ユーザーに関する付加情報があれば、この欄に入力してください。
Role (ロール)	アドミニストレーターとユーザーのどちらかから選択することができます。システム上作成可能なユーザー数の範囲内であれば、いずれも作成するアカウントの数に上限はありません。 アドミニストレーターには、セットアップ全般、設定や保守、ユーザー管理、およびデバイスの割り当ての各権限が与えられています。 アドミニストレーターに設定されている各ユーザーには、IP-KVM スイッチを追加する権限がデフォルトで与えられています。 詳細については、p.56「ユーザー設定画面を使用する場合」を参照してください。
Status (ステータス)	ユーザーアカウントとデバイスへのアクセスを管理することができます。詳細は以下のとおりです。 ◆ 「Disable Account」(アカウントを無効にする)の項目にチェックを入れると、そのユーザーアカウントの使用を停止することができます。この機能ではユーザーは実際には物理的に削除されませんので、後に必要となった場合でも簡単に設定を戻すことができます。 ◆ ユーザーが次回ログインする際にパスワードの変更を要求する場合は、「User must change password at next logon」(ユーザーは次回ログイン時にパスワード変更が必要)の項目にチェックを入れてください。この項目を使うことで、初回ログインでは管理者によって発行された一時パスワードを使用し、2 回目以降はユーザー自身が設定したパスワードを使うという方法で運用することができます。 ◆ パスワードを永続的にし、ユーザーに変更されないようにしたい場合は、「User cannot change password」(ユーザーはパスワード変更不可)の項目にチェックを入れてください。

左側のサイドメニューから「Groups」(グループ)を選択した場合は、「Add Group」(グループの追加)をクリックし、下図のような画面を表示してください。

この画面における入力欄の説明は下表のとおりです。

項目	説明
Group Name (グループネーム)	最大 32 文字で設定してください。
Description (説明)	グループに関する付加情報があれば、最大 45 文字でこの欄に入力してください。

- 「Groups」(グループ)タブを選択すると、この新規ユーザーをグループに追加することができます (p.54 参照)。また、「Devices」(デバイス)タブを選択すると、このユーザーに対してポートへのアクセス権限を割り当てることもできます (p.57 参照)。

注意: グループの設定はここでは必須ではありませんので、この手順を省略し、先にユーザーやグループを作成しておいてから、後でユーザーをグループに登録したり、ユーザーに権限を与えたりすることもできます。

- 各項目への入力が終わったら「Save」(保存)ボタンをクリックしてください。
- 操作に成功すると、メッセージボックスに「Operation Succeeded」(オペレーション成功)と表示されますので、「OK」ボタンをクリックして操作を終了してください。

「User Management」(ユーザー管理)画面に戻る場合は、設定パネルの右上にある「Back」(戻る)をクリックするか、左側のサイドメニューにある「Users」(ユーザー)をクリックしてください。

新規に追加されたユーザーは、設定パネルに表示されます。

- ◆ 情報/設定パネルには、ユーザーネーム、アカウント作成時に入力された説明、アカウントの状態(アクティブになっているか、または無効に設定されているか)が表示されています。また、ここからユーザー情報の編集やユーザーアカウントの削除といった操作も行えます。

Name	Description	Status	Modify	Delete
1. administrator		Active		
2. 123456		Active		

ユーザーのコピー

類似ユーザーを複数作成する手間が省けるよう、ユーザーのコピー機能が提供されています。この機能は、設定パネルの右上にある「Copy User」(ユーザーのコピー)ボタンを使って実行できます。



設定のコピー元となるユーザーを選択したら、この「Copy User」(ユーザーのコピー)ボタンをクリックしてください。そうしたら、ユーザーの追加と同様の方法で値を設定してください。

ユーザー情報の編集

ユーザー情報を編集したい場合は、情報/設定パネルの「Modify」(編集)列にあるペンのアイコンをクリックしてください。

設定可能な項目については、p.48「ユーザーの追加」のセクションを参照してください。

ユーザーアカウントの削除

ユーザーアカウントを削除したい場合は、情報/設定パネルの「Delete」(削除)列にある「×」アイコンをクリックしてください。

そうすると、システム側から下図のような確認ダイアログが表示され、処理を続行するかどうかの選択が求められます。



処理を続行する場合は「Yes」(はい)を、キャンセルする場合は「No」(いいえ)を、それぞれクリックしてください。

ユーザーやグループの管理(割り当て)

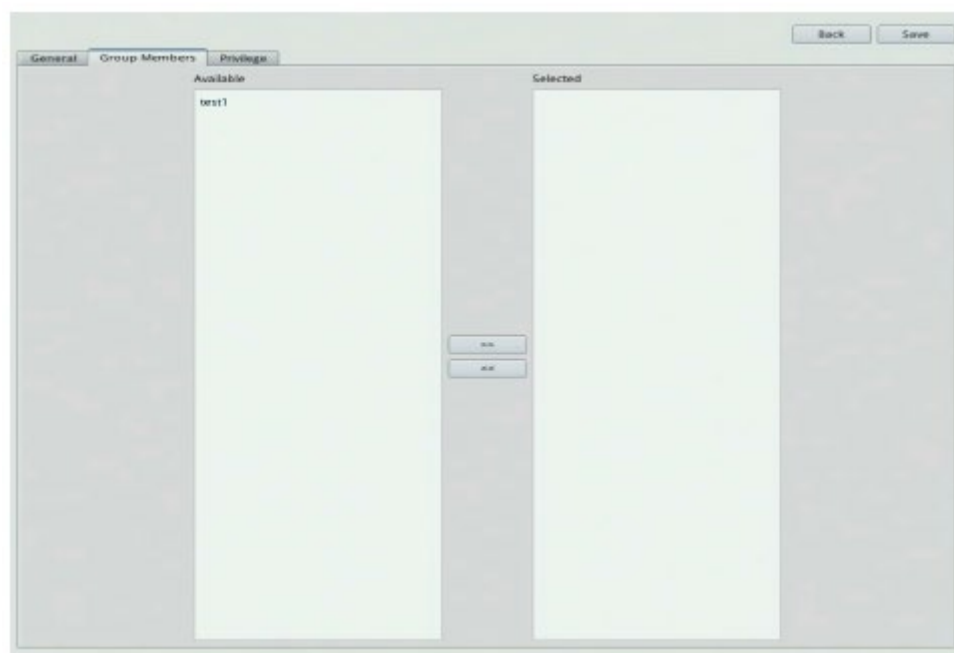
ユーザーをグループに割り当てるには、ユーザーの設定画面から割り当てる方法と、グループの設定画面から割り当てる方法の 2 種類を提供しています。

注意: ユーザーをグループに割り当てる前に、必要となるユーザーとグループを事前に作成しておいてください。詳細については p.48 をご参照ください。

ユーザーの設定画面を使用する場合

ユーザーの設定画面に遷移するには、次の手順に従って操作してください。

1. 左側のサイドメニューにある「User Management」(ユーザー管理)の「Users」(ユーザー)をクリックして、設定画面に遷移してください。
2. 「Modify」(編集)列にあるペンのアイコンをクリックしてください。
3. 設定画面で、下図のように「Group Members」(グループメンバー)タブを選択してください。



グループへのユーザーの割り当て

1. 「Available」(有効)リストから、ユーザーの所属先となるグループを選択してください。
2. 右矢印のボタン(>>)をクリックして、手順 1 で選択したグループを「Selected」(選択)リストに移動させてください。
3. 他にもユーザーの所属グループがある場合は、上記の手順を繰り返してください。

4. グループの選択が完了したら、「Save」(保存)ボタンをクリックしてください。

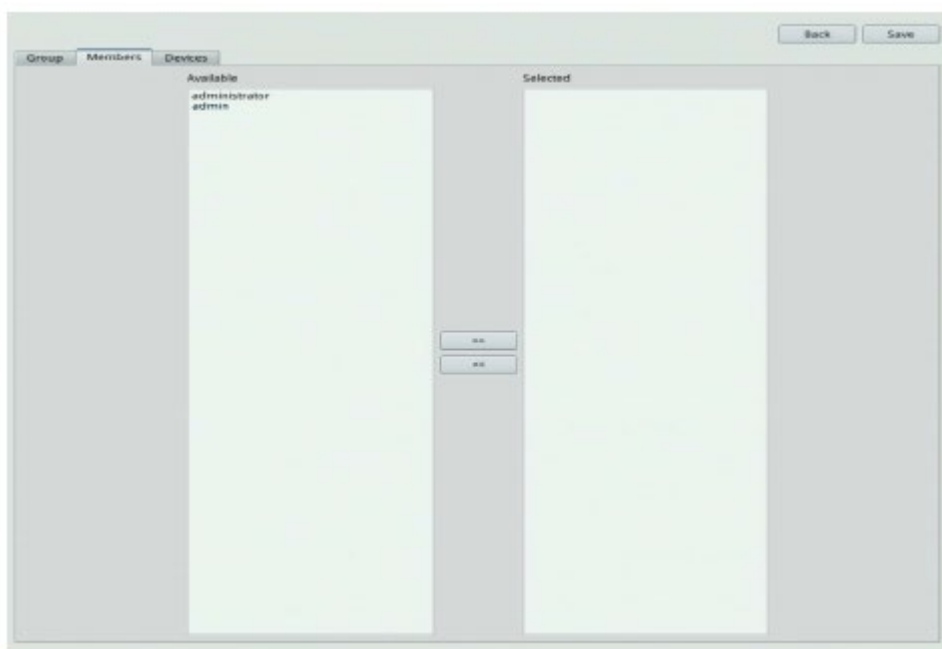
グループからのユーザー削除

1. 「Selected」(選択)リストから、ユーザーの登録を解除したいグループを選択してください。
2. 左矢印のボタン(<)をクリックして、手順 1 で選択したグループを削除してください。
3. 他にもユーザーの登録を解除したいグループがある場合は、上記の手順を繰り返してください。
4. ユーザーの選択が完了したら、「Save」(保存)ボタンをクリックしてください。

ユーザーグループの設定画面を使用する場合

グループの設定画面に遷移するには、次の手順に従って操作してください。

1. 左側のサイドメニューにある「User Management」(ユーザー管理)の「Groups」(グループ)をクリックして、設定画面に遷移してください。
2. 「Modify」(編集)列にあるペンのアイコンをクリックしてください。
3. 設定画面で、下図のように「Members」(メンバー)タブを選択してください。



グループへのユーザーの割り当て

1. 「Available」(有効)リストから、グループに追加したいメンバー(ユーザー)の名前を選択してください。
2. 右矢印のボタン(>>)をクリックして、手順 1 で選択したメンバーを「Selected」(選択)リストに移動させてください(グループに追加されます)。
3. 他にもグループに追加したいユーザーがいる場合は、上記の手順を繰り返してください。
4. 操作が完了したら、「Save」(保存)ボタンをクリックしてください。

グループからのユーザー削除

1. 「Selected」(選択)リストから、グループから削除したいメンバー(ユーザー)を選択してください。
2. 左矢印のボタン(<<)をクリックして、手順 1 で選択したユーザーを「Available」(有効)リストに移動させてください(この操作でグループからユーザーが削除されます)。
3. 他にもグループから除外したいユーザーがいる場合は、上記の手順を繰り返してください。
4. 操作が完了したら、「Save」(保存)ボタンをクリックしてください。

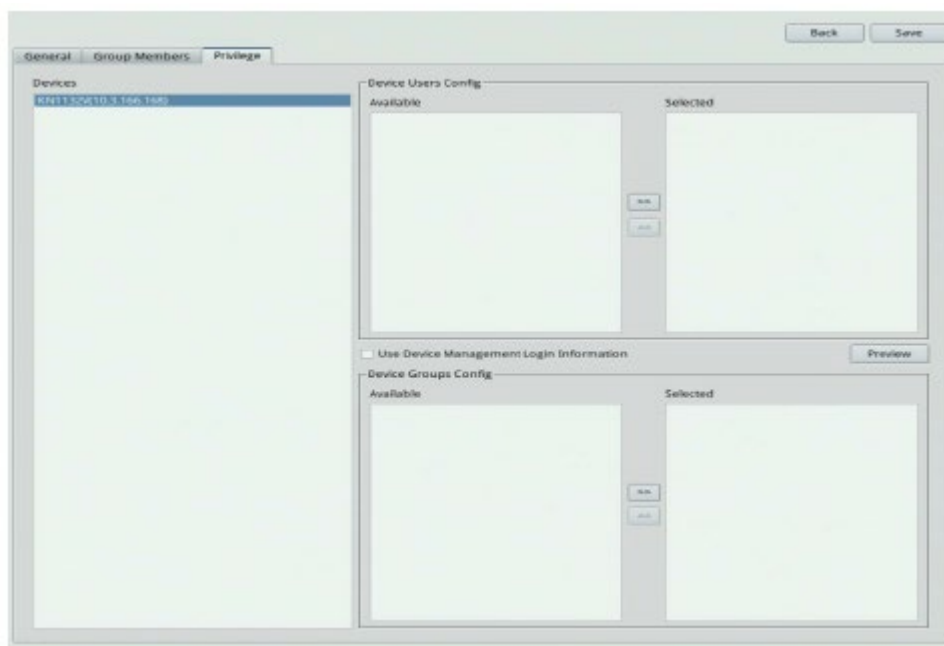
デバイスの割り当て

この機能を使うとアクセス権限をユーザーまたはグループに割り当てることができ、操作はデバイス設定画面から行います。アドミニストレーターは、追加された IP-KVM スイッチおよびアクセスポートにおける特定のユーザー権限を、ユーザーに対して割り当てることが可能です。

ユーザー設定画面を使用する場合

ユーザーの設定画面に遷移するには、次の手順に従って操作してください。

1. 左側のサイドメニューにある「User Management」(ユーザー管理)の「Users」(ユーザー)をクリックして、設定画面に遷移してください。
2. 「Modify」(編集)列にあるペンのアイコンをクリックしてください。
3. 設定画面で、下図のように「Privilege」(権限)タブを選択してください。



この画面における各項目については、次に説明します。

デバイス

- ◆ 「Devices」(デバイス)一覧には現在利用可能なデバイスが表示されます。
- ◆ デバイスの対するユーザーアカウントやグループが変更された場合は、「Refresh」(再読込)アイコンをクリックして、このデバイスのユーザー一覧を更新してください。

デバイスユーザー設定

- ◆ デバイスが選択されると、「Available」(有効)列(左側の列)に、(このデバイスで)利用可能なユーザーが一覧表示されます。
- ◆ 「Selected」(選択済み)列(右側の列)には、(このデバイスで)選択されたユーザーが表示されます。
- ◆ 右矢印のボタン(>>)をクリックすると選択済みアイテムを「Selected」(選択)列に、また、左矢印のボタン(<<)をクリックすると選択済みアイテムを「Available」(有効)列に、それぞれ移動させます。
- ◆ コンソールステーションのユーザー/グループは、(このデバイスにおいて)選択されたユーザーの操作権限を取得します。
- ◆ KVM over IP コンソールステーションの各ユーザーには、IP-KVM スイッチにおけるユーザーアカウントの権限のうち、1 種類しか割り当てることができません。

デバイスグループ設定

- ◆ デバイスが選択されると、「Available」(有効)列(左側の列)に、(このデバイスで)利用可能なグループが一覧表示されます。
- ◆ 「Selected」(選択済み)列(右側の列)には、(このデバイスで)選択されたグループが表示されます。
- ◆ 右矢印のボタン(>>)をクリックすると選択済みアイテムを「Selected」(選択)列に、また、左矢印のボタン(<<)をクリックすると選択済みアイテムを「Available」(有効)列に、それぞれ移動させます。
- ◆ コンソールステーションのユーザー/グループは、(このデバイスにおいて)選択されたグループの操作権限を取得します。

ユーザーデバイス管理のログイン情報

- ◆ 「User Device Management Login Information」(ユーザーデバイス管理のログイン情報)にチェックを入れると、「Device Users Configuration」(デバイスユーザーの設定)および「Device Groups Configuration」(デバイスグループの設定)の各セクションにおけるすべての選択項目をブロックし、このデバイスの追加に使われたユーザーのアクセス権限を付与します。
- ◆ アクセス権限の詳細については p.44「デバイスの追加」を参照してください。

プレビュー

- ◆ 「Preview」(プレビュー)ボタンをクリックすると、上の部分で選択されたアクセス権限が下図のように表示されます。

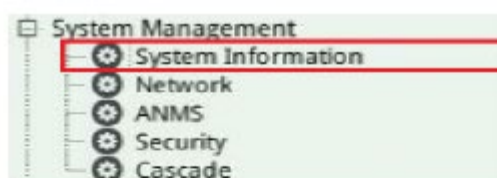
システム管理

この画面には、デバイス情報が表示されます。また、ここからはネットワーク、ANMS、およびセキュリティの各設定を行うことができます。

注意: 新しい設定が保存されると、システムは再起動します。

システム情報

左側のサイドメニューにおける「System Management」(システム管理)の「System Information」(システム情報)をクリックすると、情報画面に遷移します。



Device Name	KA8270
MAC Address	00-10-74-17-81-01
Firmware Version	V1.1.102.20191224
FPGA	Build20191210.151114
IP Address	192.168.0.60
Subnet Mask	255.255.255.0
IPv6 Address	fe80::210:74ff:fe17:8101
IPv6 Subnet Prefix Length	64

「System Information」(システム情報)画面には、選択デバイスの名前、ファームウェアバージョン、FPGA、およびネットワーク設定に関する情報が表示されます。

「Device Name」(デバイス名)の部分(例:KA8278)をダブルクリックすると、デバイス名を変更します。

ネットワーク

「Network」(ネットワーク)画面は、ネットワーク環境を定義するのに使用されます。

左側のサイドメニューにおける「System Management」(システム管理)の「Network」(ネットワーク)をクリックすると、情報画面に遷移します。

The screenshot displays the 'Network' configuration page. At the top, the 'System Management' menu is visible, with 'Network' highlighted. Below this, the 'IP Installer' section has three radio buttons: 'Enabled' (selected), 'View Only', and 'Disabled'. The 'IPv4 Settings' section contains the following fields: 'IP Address' (192.168.0.50), 'Subnet Mask' (255.255.255.0), 'Gateway' (0.0.0.0), and 'DNS Server' (0.0.0.0). The 'IPv6 Settings' section contains the following fields: 'IPv6 Address' (fe80::210:74ff:fe17:8101), 'IPv6 Subnet Prefix Length' (64), 'Gateway', and 'DNS Server'. A 'Save' button is located at the bottom of the page.

この画面における各項目については、次に説明します。

IP インストーラー

IP インストーラーは、IP-KVM スイッチに IP アドレスを割り当てる Windows 用ユーティリティです。

IP インストーラーの扱いについて、ラジオボタンを使って、「Enable」(有効)、「View Only」(参照のみ)、「Disable」(無効)のいずれかに設定してください。

-
- 注意:**
1. 「View Only」(参照のみ)を選択した場合、IP インストーラーのデバイス一覧で IP-KVM スイッチを確認することはできますが、このデバイスの IP アドレスを変更することはできません。
 2. セキュリティ対策として、IP インストーラーの使用後は、設定を「View Only」(参照のみ)または「Disable」(無効)に変更することを推奨します。
-

IPv4 設定

■ IP Address (IP アドレス)

IPv4 は IP アドレスの従来の設定方法です。製品には DHCP を使用して動的 IP アドレスを設定することも、固定 IP アドレスを設定することも可能です。

- ◆ 動的 IP アドレスを割り当てる場合は、「Obtain IP address automatically」(IP アドレスを自動的に取得する)のラジオボタンを選択してください(**デフォルト設定です**)。
- ◆ 固定 IP アドレスを設定する場合は、「Set IP address manually」(IP アドレスを手動で設定する)のラジオボタンを選択し、お使いのネットワーク環境で有効な IP アドレスを入力してください。

-
- 注意:**
1. 「Obtain IP address automatically」(IP アドレスを自動的に取得する)の項目を選択し、DHCP を使って製品の IP アドレスを自動的に取得する場合、製品は起動後に DHCP サーバーからの IP アドレスの割り当てを待機します。1 分経過しても IP アドレスが割り当てられない場合は、工場出荷時にデフォルトで設定された IP アドレス (192.168.0.60)に自動的に戻ります。
 2. 製品が、DHCP がアドレスを割り当てるネットワークに接続されていて、なおかつ IP アドレスを確認する必要がある場合は、p.108 の「対応 KVM スイッチ」をご参照ください。
-

■ DNS Server (DNS サーバー)

- ◆ DNS サーバーのアドレスを自動的に割り当てる場合は、「Obtain DNS Server address automatically」(DNS サーバアドレスの自動取得)のラジオボタンを選択してください。

- ◆ DNS サーバーのアドレスを手動で割り当てる場合は、「Set DNS server address manually」(DNS サーバアドレスの手動設定)のラジオボタンを選択し、お使いのネットワークの優先 DNS サーバーと代替 DNS サーバーの IP アドレスをそれぞれ入力してください。

注意: 代替 DNS サーバーのアドレス設定は任意です。

IPv6 設定

現在、KVM over IP コンソールステーションでは、IPv6 の「リンクローカルアドレス」と「ステートレス自動設定」、「ステートフル自動設定(DHCPv6)」の 3 種類に対応しています。

■ IP Address (IP アドレス)

IPv6 は IP アドレス設定の新しいフォーマット(128 ビット)です。KVM over IP コンソールステーションには、DHCPを使用して動的 IPv6 アドレスを設定することも、固定 IPv6 アドレスを設定することも可能です。

- ◆ 動的 IPv6 アドレスを割り当てる場合は、「Obtain IP address automatically」(IPv6 アドレスを自動的に取得する [DHCP])のラジオボタンを選択してください(**デフォルト設定です**)。
- ◆ 固定 IP アドレスを設定する場合は、「Set IP address manually」(IPv6 アドレスを手動で設定する)のラジオボタンを選択し、お使いのネットワーク環境で有効な IP アドレスを入力してください。

■ DNS Server (DNS サーバー)

- ◆ DNS サーバーのアドレスを自動的に割り当てる場合は、「Obtain DNS Server address automatically」(DNS サーバアドレスの自動取得)のラジオボタンを選択してください。
- ◆ DNS サーバーのアドレスを手動で割り当てる場合は、「Set DNS server address manually」(DNS サーバアドレスの手動設定)のラジオボタンを選択し、お使いのネットワークの優先 DNS サーバーと代替 DNS サーバーの IP アドレスをそれぞれ入力してください。

注意: 代替 DNS サーバーのアドレス設定は任意です。

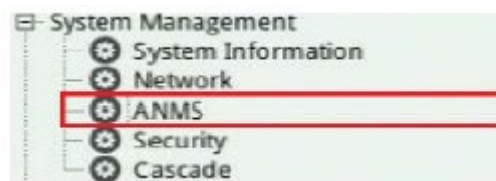
操作が完了したら

ネットワーク設定を変更したら、設定画面の下にある「Save」(保存)をクリックしてください。

ANMS

ANMS (Advanced Network Management Settings)画面では、外部システムからのログイン認証および権限管理に関するセットアップを行います。

左側のサイドメニューにおける「System Management」(システム管理)の「ANMS」をクリックすると、情報画面に遷移します。

A screenshot of the ANMS configuration page. The page is divided into two main sections: 'RADIUS Settings' and 'AD/LDAP Settings'. Each section has an 'Enable' checkbox and a 'Preferred' dropdown menu. Below these are various input fields for configuration. At the bottom is a 'Save' button.

RADIUS Settings	
☐ Enable	
Preferred RADIUS	
Server IP	
Service Port	0
☐ Same as Preferred Setting	
Authentication Type	PAP
Timeout	0 sec
Retries	0
Shared Secret	

AD/LDAP Settings	
☐ Enable	
Preferred LDAP	
Server IP	
Service Port	0
☐ Same as Preferred Setting	
☐ Server requires secure connection(SSL)	
Timeout	0 sec
Admin DN	
Admin Name	
Password	
Search DN	

Save

RADIUS 設定

KVM over IP コンソールステーションの認証および権限設定を RADIUS サーバー経由で行う場合、以下の手順に従って設定を行ってください。

1. 「Enable」(有効)の項目にチェックを入れてください。
2. プライマリ RADIUS サーバーまたは代替 RADIUS サーバーを選択してください。
3. 手順 2 で選択したサーバーの IP アドレスを「Server IP」(サーバーIP) 欄に、ポート番号を「Service Port」(サーバーポート) 欄に、それぞれ入力してください。IP アドレスには、IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、ドメイン名のいずれかを入力します。
4. 「Authentication Type」(認証の種類) 欄の値を PAP または CHAP から選択してください。
5. 「Timeout」(タイムアウト) 欄に、KVM over IP コンソールステーションにおける RADIUS サーバーからの応答待機時間(秒)を入力してください。
6. 「Retries」(再試行) 欄に、RADIUS 認証の再試行可能回数を入力してください。
7. 「Shared Secret」(共有シークレット) 欄に KVM over IP コンソールステーションと RADIUS サーバー間の認証で使用する共有シークレットの文字列を 6 文字以上で入力してください。
8. RADIUS サーバーでは、以下のいずれかの方法でユーザー認証を行うことができます。
 - ◆ ユーザーエントリを「**su/xxxx**」として設定する。
「xxxx」の部分は、製品でアカウントを作成した際にユーザーに与えられたユーザーネームに置き換えてください。
 - ◆ RADIUS サーバー側と KVM over IP コンソールステーション側で同じユーザーネームを使用する。
 - ◆ RADIUS サーバー側と KVM over IP コンソールステーション側で同じグループネームを使用する。

いずれの方法においても、ユーザーのアクセス権限は、グループユーザーが KVM over IP コンソールステーションで作成された際に割り当てられた権限になります(p.44「デバイスの追加」参照)。

AD/LDAP 設定

KVM over IP コンソールステーションにログインするユーザーの認証および権限設定を AD/LDAP で行う場合は、以下の表をご参照ください。

項目	説明
Enable (有効にする)	AD/LDAP による認証および権限設定を行う場合は、この項目にチェックを入れてください。
Type (タイプ)	この機能を有効にした時に、AD と LDAP のどちらを使って認証を行うかをドロップダウンメニューから選択してください。
Server IP/Server Port (サーバーIP/ サーバーポート)	優先 LDAP サーバーか代替 LDAP サーバーのいずれかを選択し、LDAP/LDAPS サーバーの IP アドレスやポート番号を入力してください。 ◆ 「Server IP」(サーバーIP) 欄の設定には、IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、ドメイン名のいずれかを使ってください。 ◆ LDAP サーバーのデフォルトポート番号は 389 です。
Timeout (タイムアウト)	KVM over IP コンソールステーションが AD/LDAP サーバーの応答を待機する時間(秒)を設定してください。
Admin DN (アドミニストレーターDN)	この項目に入力する値は AD/LDAP サーバーの管理者にご確認ください。以下、設定例です。 ou=kn8132,dc=aten,dc=com
Admin Name (アドミニストレーター名)	アドミニストレーターのユーザーネームを入力してください。
Password (パスワード)	アドミニストレーターのパスワードを入力してください。
Search DN (サーチ DN)	検索ベースの識別名を設定してください。これはユーザーネームの検索を開始する DNS 名です。

セットアップを完結させるには、LDAP 属性が必要となります。LDAP 属性はターミナルインターフェースを使って GET コマンドで取得することができます。詳細については、p.80「ターミナル」を参照してください。

AD/LDAP サーバーでは、下記のいずれかの方法でユーザー認証を行うことができます。

- ◆ MS Active Directory スキーマを使用

- ◆ スキーマを使用せず、KVM over IP コンソールステーション上で使用されているユーザーネームだけを LDAP サーバー上の名前に一致させる。ユーザー権限は KVM over IP コンソールステーション上で設定されている権限と同じ。
- ◆ スキーマを使用せず、Active Directory におけるグループだけを一致させる。ユーザー権限は、そのユーザーが属しているグループに設定されている権限と同じ。
- ◆ スキーマを使用せず、Active Directory におけるユーザーネームとグループを一致させる。ユーザー権限は、そのユーザーが属しているグループとユーザーに設定されている権限と同じ。

注意： LDAP に関する詳細は、弊社 Web サイトより LDAP 取扱説明書をダウンロードしてご参照ください。

操作が完了したら

ANMS 設定を変更したら、設定画面の下にある「Save」(保存)をクリックしてください。

セキュリティ

「Security」(セキュリティ)画面は、3つのメインパネルから構成されています。これらのパネルについては、後のセクションで説明します。

左側のサイドメニューにおける「System Management」(システム管理)の「Security」(セキュリティ)をクリックすると、情報画面に遷移します。

The screenshot displays the 'Security' configuration interface. The sidebar on the left shows the 'System Management' menu with 'Security' selected. The main panel contains three sections: 'Login Failures' with an 'Enable' checkbox, 'Allowed' (5), and 'Timeout' (3 min); 'Account Policy' with 'Minimum Username Length' (6), 'Minimum Password Length' (6), and checkboxes for 'Password Must Contain At Least' (One Upper Case, One Lower Case, One Number) and 'Enforce Password History'; and 'Working Mode' with checkboxes for 'Enable ICMP', 'Allow Push Request From Remote', and 'Allow Pull Request From Remote', and a 'Console Keyboard Language' dropdown set to 'English US'. A 'Save' button is located at the bottom.

ログイン失敗

セキュリティを強化するために、「Login Failures」(ログイン失敗)セクションでは、ユーザーのログイン失敗を処理する際に適用されるポリシーを設定することができます。これらのポリシーを設定する場合は、「Enable」(有効にする)の項目にチェックを入れてください(デフォルトではこの項目にチェックが入っています)。各項目が表す内容は下表のとおりです。

項目	説明
Allowed (許可)	リモートコンピューターからのログイン連続試行可能回数を設定します。デフォルトでは 5 回に設定されています。
Timeout (タイムアウト)	ログイン連続試行可能回数を超過してしまった場合に、次のログインまでに待機しなければならない時間を設定します。デフォルトでは 3 分に設定されています。

注意: このセクションの項目を設定していないと、ユーザーは無制限で何度でもログインを試行することが可能になってしまいます。セキュリティを維持するために、この機能を有効にしてロックアウトポリシーを設定されることを推奨します。

アカウントポリシー

システム管理者は「Account Policy」(アカウントポリシー)セクションでユーザーネームやパスワードの管理ポリシーを設定することができます。

このセクションにおける各項目の内容は下表のとおりです。

項目	説明
Minimum Username Length (ユーザー名最小文字数)	ユーザーネームの設定に最低限入力が必要な文字数を設定します。設定できる値は 1～32 です。デフォルトでは 6 に設定されています。
Minimum Password Length (パスワード最小文字数)	パスワードの設定に最低限入力が必要な文字数を設定します。設定できる値は 0～32 です。0 を設定した場合は、パスワードの入力が不要になり、ユーザーはユーザーネームだけでログインできるようになります。デフォルトでは 6 に設定されています。

(表は次のページに続きます)

項目	説明
Password Must Contain At Least (パスワードには以下が必須です)	これらの項目にチェックを入れると、パスワードに含めなければならない文字の条件を追加することができます。 One Upper Case (大文字 1 文字) - 半角英字の大文字を 1 文字以上入力 One Lower Case (小文字 1 文字) - 半角英字の小文字を 1 文字以上入力 One Number (数字 1 文字) - 半角数字を 1 文字以上入力 注意:このポリシーは既存のユーザーアカウントには適用されません。この項目を有効にした後でユーザーを作成したり、パスワードを変更したりした場合に、ポリシーが適用されます。
Enforce Password History (パスワード履歴を実行する)	この項目にチェックを入れると、同一ユーザーによる同時ログインを制限することができます。

動作モード

「Working Mode」(動作モード) セクションにおける各項目の内容は下表のとおりです。

項目	説明
Enable ICMP (ICMP を有効にする)	この項目が有効になっていると、KVM over IP コンソールステーションは自身に発行された ping コマンドに対して応答します。この項目が無効になっていると、外部から自身に対する ping には応答しません。デフォルトではこの項目は有効になっています。
Allow Push Request from Remote (リモートからのプッシュリクエストを許可する)	この項目が有効になっていると、別の KVM over IP コンソールステーションから、お使いのコンソールステーションに対して、設定やファームウェアのプッシュが可能になります。この項目が無効になっていると、設定やファームウェアのプッシュを制限します。
Allow Pull Request from Remote (リモートからのプルリクエストを許可する)	この項目が有効になっていると、別の KVM over IP コンソールステーションが、お使いのコンソールステーションから、設定やファームウェアをプルすることが可能になります。この項目が無効になっていると、設定やファームウェアのプルを制限します。

(表は次のページに続きます)

項目	説明
Console Keyboard Language (コンソールキーボード言語)	ドロップダウンメニューをクリックして、コンソールのローカルキーボード言語を選択してください。

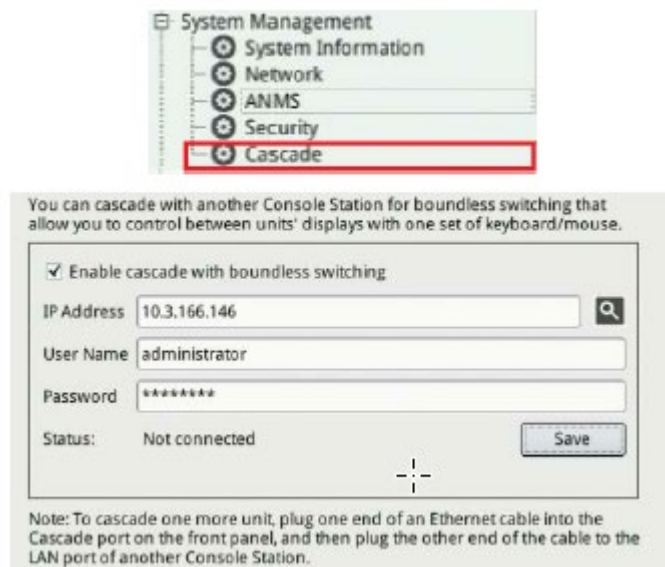
操作が完了したら

セキュリティ設定を変更したら、設定画面の下にある「Save」(保存)をクリックしてください。

カスケード

「Cascade」(カスケード)画面は、カスケード接続におけるマルチスクリーンコントロール機能をセットアップするのに使用します。

左側のサイドメニューにおける「System Management」(システム管理)の「Cascade」(カスケード)をクリックすると、情報画面に遷移します。



System Management

- System Information
- Network
- ANMS
- Security
- Cascade**

You can cascade with another Console Station for boundless switching that allow you to control between units' displays with one set of keyboard/mouse.

☒ Enable cascade with boundless switching

IP Address: 10.3.166.146

User Name: administrator

Password: *****

Status: Not connected

Save

Note: To cascade one more unit, plug one end of an Ethernet cable into the Cascade port on the front panel, and then plug the other end of the cable to the LAN port of another Console Station.

このセクションにおける各項目の内容は下表のとおりです。

項目	説明
Enable cascade with boundless switching (カスケード接続におけるマルチスクリーンコントロールを有効にする)	この項目にチェックを入れるとマルチスクリーンコントロール機能を有効にします。また、チェックを外す则この機能を無効にします。デフォルトでは無効に設定されています。
IP Address (IP アドレス)	親機からマルチスクリーンコントロール機能を実行したい KA8270/KA8278/KA8280/KA8288 の IP アドレスを入力してください。
User Name (ユーザーネーム)	アドミニストレーターのユーザーネームを入力してください。
Password (パスワード)	アドミニストレーターのパスワードを入力してください。
Status (状態)	カスケード接続の状態を、「Not Connected」(未接続)または「Cascaded with KA8270, KA8278, KA8280 or KA8288(IP)」(KA8270/KA8278/KA8280/KA828 とカスケード接続済み(IP))のいずれかで表示します。

操作が完了したら

必要な項目に値を入力したら、設定画面の下にある「Save」(保存)をクリックしてください。

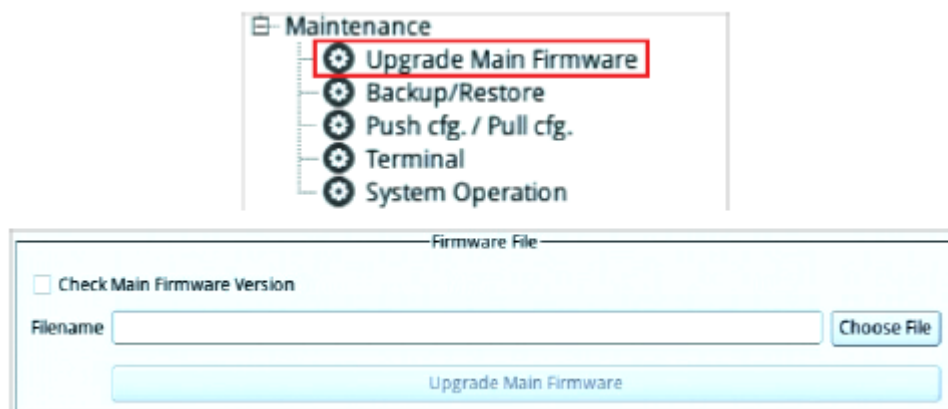
メンテナンス

メンテナンス機能は、ファームウェアのアップグレード、設定内容およびアカウント情報のバックアップ・リストア、設定のプッシュ/プル、ターミナルコマンドの送信、ping ネットワーク診断やデフォルト値への復元を行います。

メインファームウェアのアップグレード

新しいバージョンのファームウェアがリリースされると、弊社 Web サイトに公開され、ダウンロードできるようになります。ダウンロードは、1) 製品ページ内の「サポートとダウンロード」メニューからアクセス、または、2) ホームページのトップページの右上に表示される(表示画面のサイズによっては画面左上に三本線のアイコンが表示されるので、それをクリックすると表示される)「サポートとダウンロード」→「ダウンロード」→「他の製品の資料をダウンロードする」に型番を入力して検索する方法で行えます。このサイトを定期的にご確認いただき、最新のファームウェアにアップグレードしてください。

左側のサイドメニューにおける「Maintenance」(メンテナンス)の「Upgrade Main Firmware」(メインファームウェアのアップグレード)をクリックすると、情報画面に遷移します。

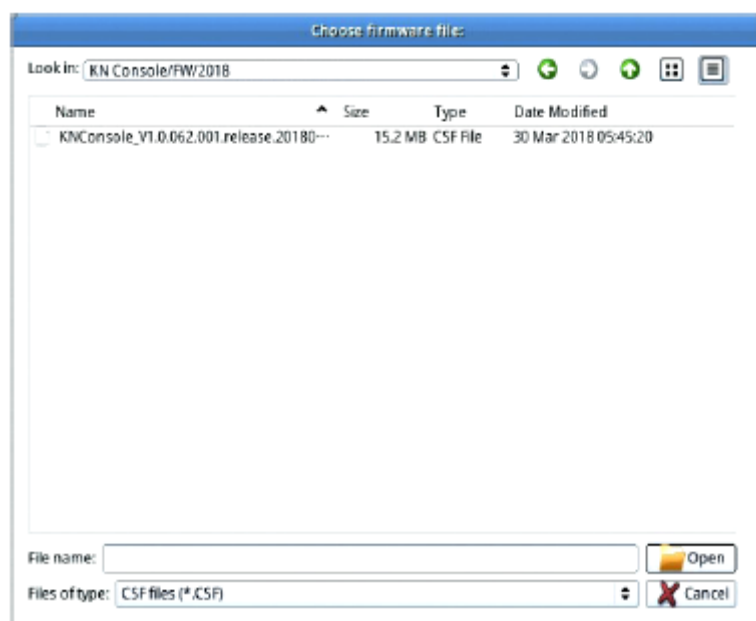


ファームウェアをアップグレードするには、下記の手順に従って操作を行ってください。

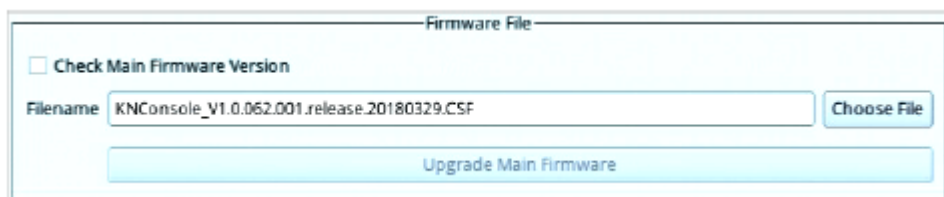
1. 弊社 Web サイトからファームウェアをコンピューターにダウンロードして、最新のファームウェアを取得してください。
2. ZIP ファイル(*.zip) ファイルを展開すると、CSF ファイル(*.csf) ファイルがありますので、このファイルをコピーして、USB フラッシュメモリにペーストしてください。

注意: USB フラッシュメモリは、FAT ファイルシステムでフォーマットされたものをお使いください。

3. コンピューターから USB フラッシュメモリを取り外したら、コンソールステーションの USB ポートに挿入してください。
4. コンソールステーションのファームウェア画面で、「Choose File」(ファイルの選択)をクリックしてください。そうすると、ファイルの管理ウィンドウがポップアップ表示されます。



5. 新しいファームウェアファイルが置かれたフォルダーに移動したら、このファイルを選択して「開く」をクリックしてください。
そうすると、下図のように設定画面の「Filename」(ファイル名)欄にファイル名が表示されます。



6. 「Upgrade Main Firmware」(メインファームウェアをアップグレードする)ボタンをクリックし、アップグレードを実行してください。
◆ 「Check Main Firmware Version」(メインのファームウェアバージョンを確認する)の項目にチェックが入っていると、現在使用しているファームウェアとインストールしようとしているファームウェアファイルとの間でバージョンの比較を行います。2つのバージョンが同じ、もしくは現在使用しているファームウェアのバージョンの方が新しい場合、アップグレードを中止するという内容のポップアップメッセージが表示されます。

- ◆ 「Check Main Firmware Version」(メインのファームウェアバージョンを確認する)の項目にチェックが入っていない場合は、バージョンの比較を行うことなくファームウェアのアップグレードを行います。
 - ◆ アップグレードの進行状況は、プログレスバーで確認することができます。
 - ◆ アップグレードに成功すると、製品本体が再起動します。
7. KVM over IP コンソールステーションに再度ログインし、ファームウェアのバージョン情報が更新されていることを確認してください。

注意: ファームウェアのアップグレードに失敗した場合は、下記の「ファームウェアアップグレードのリカバリー」をご参照の上、リカバリーを行ってください。

ファームウェアアップグレードのリカバリー

メインのファームウェアのアップグレードに失敗し、KVM over IP コンソールステーションが使用できなくなってしまった場合は、以下の方法でリカバリー処理を行って、製品本体を元のファームウェアバージョンに戻してください。

1. KVM over IP コンソールステーションから電源アダプターを取り外して、電源を切ってください。
2. 先の尖ったものを使ってリセットスイッチを長押ししてください。
3. リセットスイッチを押したまま、製品本体に電源アダプターを接続して、電源を入れてください。

上記の操作によって、KVM over IP コンソールステーションのメインファームウェアは工場出荷時のバージョンに戻ります。製品本体が操作可能な状態になったら、メインファームウェアのアップグレードを、もう一度実行してください(p.72「メインファームウェアのアップグレード」参照)。

バックアップ/リストア

バックアップ/リストア機能を使うと、KVM over IP コンソールステーションの設定とユーザープロファイルの情報のバックアップを作成することができます。

左側のサイドメニューにおける「Maintenance」(メンテナンス)の「Backup/Restore」(バックアップ/リストア)をクリックすると、情報画面に遷移します。

A screenshot of the 'Backup/Restore' interface. It is divided into two main sections: 'Backup' and 'Restore'. The 'Backup' section has a 'Password' input field and a 'Backup' button. The 'Restore' section has a 'Filename' input field with a 'Choose File' button, a 'Password' input field, and three radio buttons: 'Select All' (selected), 'User Account/Devices', and 'User Select'. Below these is an 'Options' section with several checked checkboxes: 'Device Information', 'Network', 'ANMS', 'Security', and 'User Account/Devices'. A 'Restore' button is at the bottom.

バックアップ

デバイスの設定のバックアップを作成する場合は、以下の手順に従って操作してください。

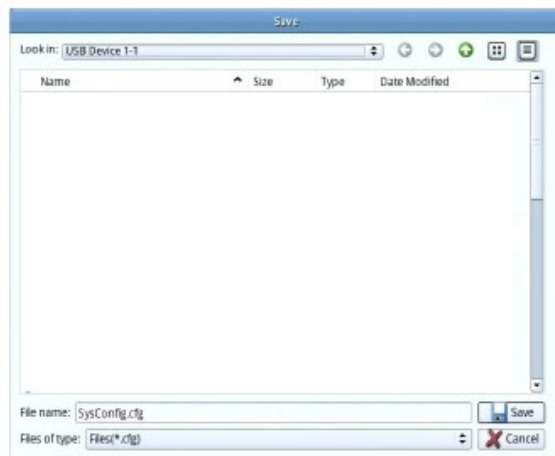
注意: バックアップファイルを保存できるよう、コンソールステーションに USB フラッシュメモリを接続しておいてください。

1. (オプション)「Password」(パスワード)欄に、ファイルのリストアに必要なパスワードを入力してください。

注意:

1. パスワードの設定は任意です。パスワードを設定しない場合、ファイルはパスワードなしでリストアされます。
2. パスワードを設定する場合、リストアの際にこのパスワードが必要になりますので、忘れないように記録しておいてください。

2. 「Backup」(バックアップ)ボタンをクリックしてください。



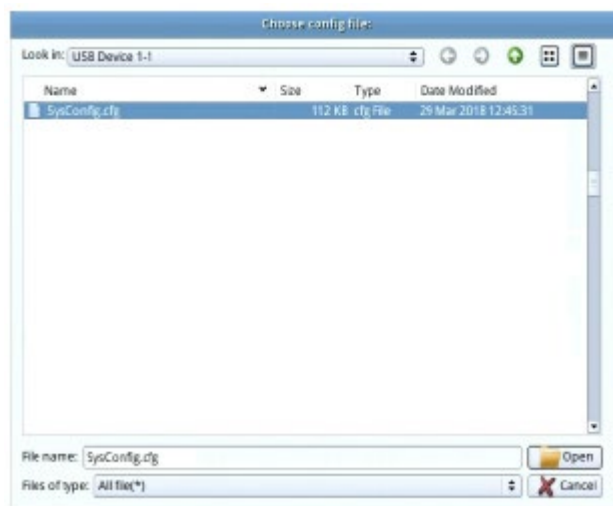
3. 「ファイル名」の欄にバックアップ用ファイルの名前を入力し、「保存」をクリックしてください。ファイルがバックアップされると、処理に成功したという内容のメッセージが表示されます。

リストア

バックアップの内容をリストアする場合は、以下の手順に従って操作してください。

注意: バックアップファイルをリストアするには、このファイルが保存されている USB フラッシュメモリをコンソールステーションに接続してください。

1. 「ファイルの選択」ボタンをクリックし、ファイルの管理ウィンドウを表示してください。



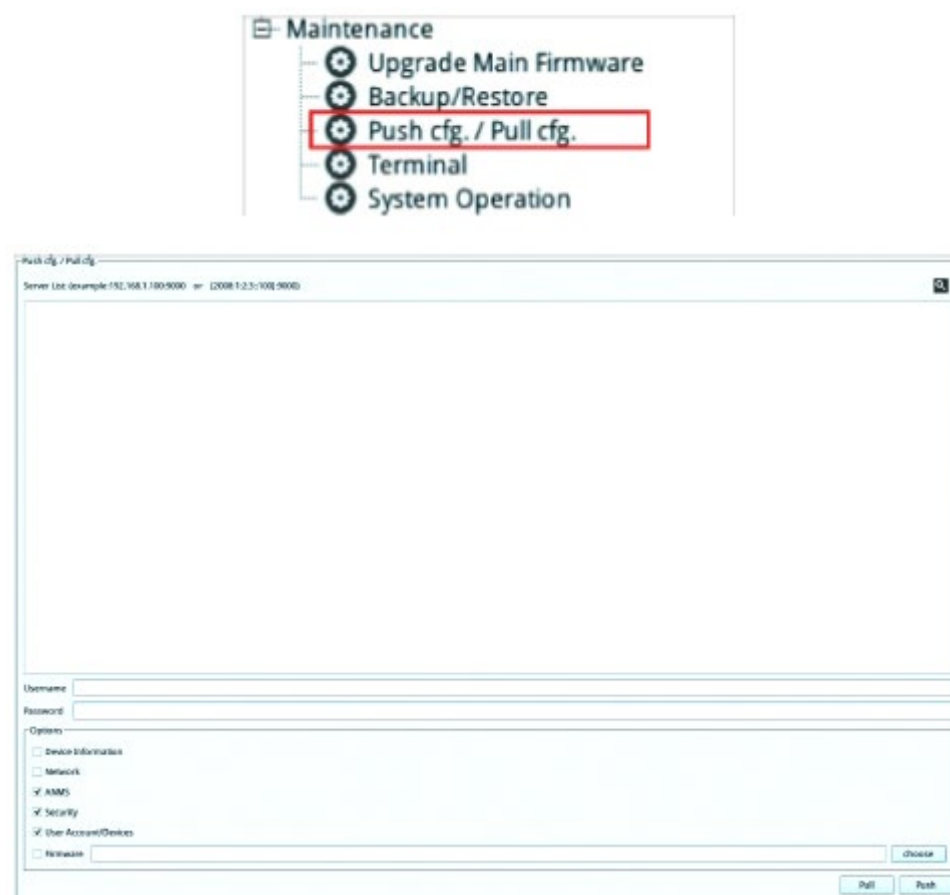
2. バックアップファイル(*.cfg)が保存されているフォルダーに移動して、(上図の例のように)ファイルを選択したら、「開く」をクリックしてください。
3. バックアップファイルの作成時にパスワードを設定している場合は、「Password」(パスワード)欄に、そのパスワードと同じ文字列を入力してください。

4. ファイルに保存された内容のうち、リストアしたい項目にチェックを入れてください(複数選択可)。
5. 「Restore」(リストア)ボタンをクリックしてください。
ファイルがリストアされると、処理に成功したという内容のメッセージが表示されます。
その後、「Your system will automatically restart in one minute」(お使いのシステムは 1 分後に自動的に再起動します)というメッセージが表示され、システムが再起動します。

設定のプッシュ/プル

この機能を使うと、現在の設定を他のコンソールステーションに適用したり、他のコンソールステーションから取得した設定を適用したりすることができます。

左側のサイドメニューにおける「Maintenance」(メンテナンス)の「Push cfg. / Pull cfg.」(設定のプッシュ/設定のプル)をクリックすると、情報画面に遷移します。



設定のプル

お使いのコンソールステーションに設定をプルするには、下記の手順に従って操作してください。

1. 設定の取得元となるデバイスの IP アドレスまたは IPv6 アドレスを入力してください。
もしくは、虫眼鏡のアイコンの部分にマウスを動かして、同一 LAN 上にあるデバイスの一覧から検索し、該当するデバイスの IP アドレスまたは IPv6 アドレスをクリックしてください。



2. 手順 1 で選択したデバイスにおいて、管理者権限のあるユーザーネームと、このユーザーのパスワードを入力してください。
3. お使いのコンソールステーションに適用したい設定内容をチェックボックスで選択してください。

注意: この機能では、ファームウェアファイルを取得することができません。また、「Firmware」(ファームウェア)のチェックボックスを選択した場合は、「Pull」(プル)ボタンをご利用いただくことができません。

4. 「Pull」(プル)をクリックして、情報を取得してください。
情報が正常に取得されると、コンソールステーションは再起動します。

設定のプッシュ

お使いのコンソールステーションの設定を別のデバイスにプッシュするには、下記の手順に従って操作してください。

注意: 設定内容やファームウェアは、以下に説明する方法のいずれかを使って、複数のデバイスに適用することができますので、デバイスごとにプッシュ処理をする必要はありません。

1. 設定の適用先となるデバイスの IP アドレスまたは IPv6 アドレスを入力してください(複数指定可)。
もしくは、虫眼鏡のアイコンの部分にマウスを動かして、同一 LAN 上にあるデバイスの一覧から検索し、該当するデバイスの IP アドレスまたは IPv6 アドレスをクリックしてください。



- 手順 1 で選択したデバイスにおいて、管理者権限のあるユーザーネームと、このユーザーのパスワードを入力してください。
- お使いのコンソールステーションから取得したい設定内容をチェックボックスで選択してください(複数選択可)。

注意: 「Firmware」(ファームウェア)のチェックボックスを選択した場合は、「Choose」(選択)ボタンをクリックして、USB フラッシュメモリからファームウェアを選択してください。

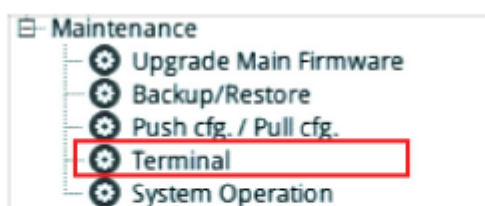
- 「Push」(プッシュ)をクリックして、情報を適用してください。
情報が正常に適用されると、コンソールステーションは再起動します。

ターミナル

ターミナル機能を使うと、ターミナルインターフェースを使ってコマンドからオプションを実行することができます。ウィンドウでコマンドを入力してから[Enter]キーを押すと、コマンドを実行します。

左側のサイドメニューにおける「Maintenance」(メンテナンス)の「Terminal」(ターミナル)をクリックすると、ターミナル画面に遷移します。

注意: ターミナルが表示されない場合は、「+」マークをクリックしてサブメニューを展開してください。



使用できるコマンドは下記のとおりです。

- ◆ GET → 現在の設定情報を取得します。
- ◆ HELP → コマンドのヘルプ情報を提供します。
- ◆ CLEAR → 画面を消去します。
- ◆ PING → ping ホスト情報を表示します。

- ◆ SETLDAPMEMBER → LDAP メンバーに新しい値を設定します。
- ◆ SETLDAPMEMBEROF → LDAP の memberof に新しい値を設定します。
- ◆ SETPROMPT → プロンプト文字列を設定します。
- ◆ TRACERT → trace route 情報を表示します。
- ◆ DEVICEHISTORY → デバイス一覧の履歴を消去/有効化/無効化します。
- ◆ SELFDIAGNOSTIC → 自己診断します。

システム操作

システム操作画面では、KVM over IP コンソールステーションに対して行われた特定の設定変更から、工場出荷時におけるデフォルト値に戻すことができます。



デフォルト値の復元

「Reset Default Values」(デフォルト値の復元)ボタンをクリックすると、「Customization」(カスタマイズ)画面で KVM over IP コンソールステーションに対して行われた変更をキャンセルし、工場出荷時に設定されているパラメーターの値に戻します。

このとき、システム側から下図のような確認ダイアログが表示され、処理を続行するかどうかの選択が求められます。



「Yes」(はい)をクリックすると処理を続行し、システムはリセット後に再起動します。

「No」(いいえ)をクリックすると操作をキャンセルします。

終了時にリセット

「Reset on exit」(終了時にリセット)の項目にチェックを入れると、「System Configuration」(システム設定)画面を終了する際に、システム側から KVM over IP コンソールステーションをリセットして、新しい設定内容を適用するかどうかの選択を促されます。



「Yes」(はい)をクリックすると処理を続行し、システムはリセット後に再起動します。

「No」(いいえ)をクリックすると操作をキャンセルし、リセットは行いません。

コンソールステーションの IP アドレスを変更すると(p.60「ネットワーク」参照)、この項目には自動的にチェックが入り、コンソールステーションは、ユーザーが別の画面に移動した際にリセットを行います。

このページでの操作を終了する前に、この項目からチェックを外すと、変更済みの IP 設定は無視されて、元々設定されていた IP アドレスが有効なままとなります。

注意: 変更された IP アドレスは本体には適用されませんが、画面上の設定欄にはそのまま残っています。これは、次にこの画面を開いた際に、「Reset on exit」(終了時にリセット)のチェックボックスに自動的にチェックが入り、製品本体がリセットした際には、破棄されたと思っていた新しい IP アドレスの設定が製品本体で使われることになります。この問題を避けるためには、ネットワーク設定画面に戻り、この欄に表示されている IP 設定が意図するものであるかどうかを確認してください。

ビデオ出力の切替

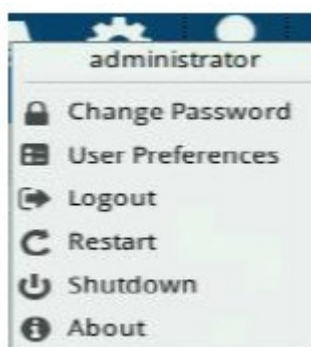
「Switch Video Output」(ビデオ出力の切替)ボタンをクリックすると、KA8278/KA8288 に対してのみビデオ出力の切替を行います。この機能が使えるようにするには、両方のディスプレイポートにディスプレイが接続されていなければなりません。

ユーザーのクイック設定

ユーザーアイコンを使うと、各種設定へと手軽にアクセスすることができます。この設定には、パスワードの変更、ユーザー設定の変更、ログアウト、システムの再起動、システムのシャットダウン、コンソールステーションに関する情報の表示といった操作が含まれます。



このユーザーアイコンをクリックすると、関連メニューにアクセスできます。



項目	説明
Change Password (パスワードの変更)	この項目をクリックすると、現在のユーザーのパスワードを変更します。
User Preferences (ユーザー設定)	スクロールメニューから言語を選択できます。言語の変更は、すぐに適用されます。 また、「Logout Timeout」(ログアウトタイムアウト)は、システムがユーザーをログアウトさせるまでに経過するアイドル時間です。この値は分単位で入力してください。アイドル時間を設けずユーザーをログアウトさせない場合は、0を設定してください。
Logout (ログアウト)	この項目をクリックすると、システムからログアウトします。
Restart (再起動)	この項目をクリックすると、システムの再起動を行います。

(表は次のページに続きます)

項目	説明
Shutdown (シャットダウン)	この項目をクリックすると、システムのセーフシャットダウンを行います。 システムのシャットダウンは、この方法で実行することを推奨します。システムでセーフシャットダウンのメッセージが表示されたら、電源アダプターを製品本体から取り外してください。
About (製品について)	この項目をクリックすると、KVM over IP コンソールステーションのデバイス名、ファームウェアバージョン、IP アドレス、および IPv6 アドレスを表示します。

第6章

ツールバーのインターフェース

概要

KVM over IP コンソールステーションのインターフェースには、選択されたポートでリモート操作を行うのに便利なツールバーが提供されています。このツールバーは、通常、非表示です。

このツールバーを表示するには、下図に示すように画面上部中央にある下向きの矢印部分をクリックしてください。



この部分をクリックすると、次のようなツールバーが表示されます。



各ツールバーアイコンの機能は下表のとおりです。

アイコン	説明
	<u>ビデオアイコン</u> このアイコンをクリックすると、ビデオ設定に遷移します。詳細については、p.87「ビデオ設定」を参照してください。
	<u>マクロアイコン</u> このアイコンをクリックすると、マクロダイアログにある「ホットキー」、「ユーザーマクロ」、「システムマクロ」という3つの機能にアクセスすることができます。詳細については、p.89「マクロ」を参照してください。

(表は次のページに続きます)

アイコン	説明
	<u>マウスの同期モードアイコン</u> この機能を使うと、リモートとローカルのマウスポインターを自動ロックして同期させますので、これらのマウスの動きを頻繁に再同期する手間が省けます。 このアイコンをクリックすると、自動マウス同期モード(「A」が付いたアイコン)と手動マウス同期モード(「M」が付いたアイコン)の間で、設定を交互に切り替えます。 詳細については、p.102「マウス同期モード」を参照してください。
	<u>接続アイコン</u> このアイコンをクリックすると、利用可能なポートを一覧表示します。接続したいポートをクリックして選択してください。
	<u>設定アイコン</u> このアイコンをクリックすると、詳細設定を行います。 詳細については、p.96「詳細設定」を参照してください。

リモート操作の終了

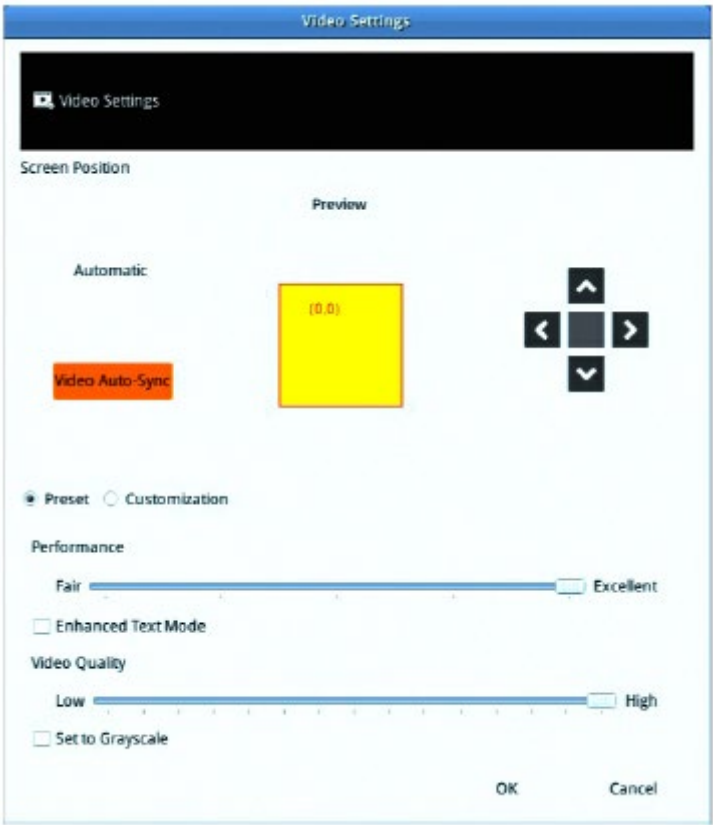
選択されたポートでのリモート操作を終了するには、次の 2 種類の方法があります。

1. 「Back」(戻る)をクリックする。
ツールバーのインターフェースで、設定アイコンをクリックして、操作オプションを表示してください。そこから「**Back**」(戻る)をクリックすると、リモート操作を終了します。
2. マクロを使用する。
デフォルトでは、リモート操作の終了ホットキー ([F2][F3][F4]) を入力することでも、リモート操作を終了することができます。

注意： この機能のホットキーをデフォルトから別のキーに変更した場合は、変更後の新しいホットキーを使用するようにしてください。

ビデオ設定

ツールバーのビデオアイコンをクリックすると、「Video Settings」(ビデオ設定)ダイアログボックスを開きます。このメニューの基本ダイアログでのオプションを使うと、画面位置の調整、自動同期の設定、パフォーマンスの調整、詳細テキストモード、ビデオ品質の調整、グレースケール表示といった設定を行うことができます。



ビデオ調整の各オプションは下表のとおりです。

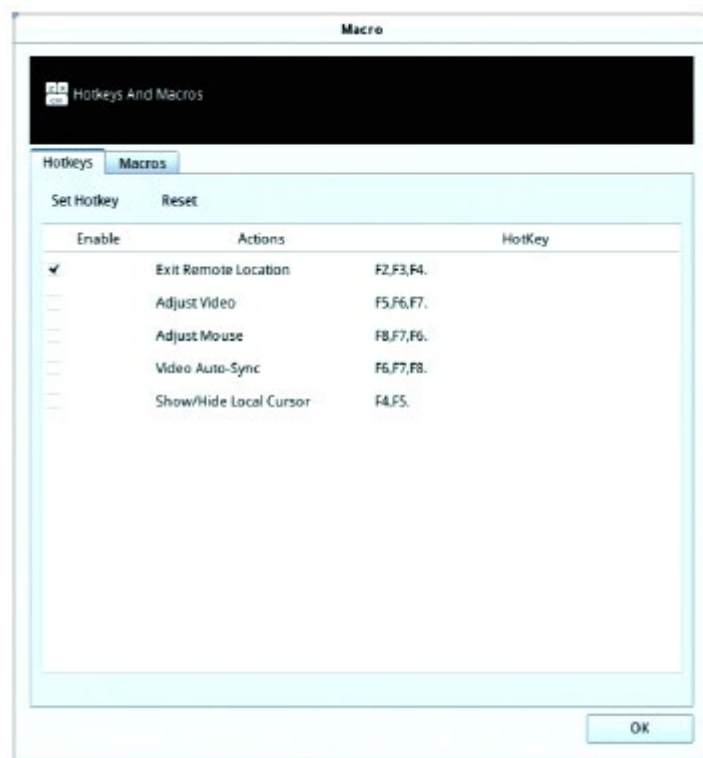
項目	説明/操作
Screen Position (画面位置)	矢印ボタンをクリックすることで、リモートサーバーのウィンドウの水平位置と垂直位置を調整します。

(表は次のページに続きます)

項目	説明/操作
Video Auto-Sync (ビデオ自動同期)	クリックすると、リモート画面の垂直および水平の各方向のオフセット値を検出し、ローカル側の画面に自動的に同期します。 注意: 1. ローカルとコンソールステーションのマウスポインターが同期を失った場合、大半のケースではこの機能を使用することで再び同期します。 2. この機能は明るい画面で実行すると最大の効果を発揮します。 3. 満足のいく調整結果が得られなかった場合は、(右側にある)「Screen Position」(画面位置)の方向ボタンでリモート画面の位置を手動で調整してください。
Preset/Customization (プリセット/カスタム)	このラジオボタンを使用すると、ビデオ設定値を設定・保存したり、デフォルトのビデオ設定値に戻したりすることができます。
Performance (パフォーマンス)	コンソールステーションが使用するインターネット接続タイプを、このスライダーバーで選択します。また、このバーをドラッグすることで、「Video Quality」(ビデオ画質)の設定を自動的に調整し、ビデオの表示画質を最適化することもできます。 ネットワークの状態は変化しますので、プリセットの選択項目では不都合が生じる場合があるかもしれません。その際は、「Video Quality」(ビデオ画質)のスライダーバーを使ってお使いの環境に適した値に調節してください。
Enhanced Text Mode (拡張テキストモード)	とりわけ、テキストの色やビデオ品質を改善したい場合は、この項目にチェックを入れてください。
Video Quality (ビデオ画質)	スライダーバーをドラッグしてビデオ画質を調整します。値が大きくなるにつれて、画像はより鮮明に、また、ネットワークに転送されるビデオデータの量はより大きくなります。ネットワークのバンド幅によっては、高い値を設定すると逆にレスポンス時間に影響を与える可能性があります。
Set to Grayscale (グレースケールに設定する)	この項目を有効にすると、ビデオをグレースケールで表示します。

マクロ

マクロアイコンを使うと、マクロダイアログにある「ホットキー」、「ユーザーマクロ」、「システムマクロ」という3つの機能にアクセスすることができます。各機能については、後続のセクションで説明します。



ホットキー

リモートサーバーの操作にまつわる様々なアクションは、ホットキーで実現可能です。(このアイコンをクリックすることでアクセスできる)ホットキーセットアップユーティリティを使うと、アクションを実行するホットキーを設定することができます。

「Actions」(アクション)列にある各アクションは、同じ行の「HotKey」(ホットキー)列にあるホットキーに対応しています。ホットキーを有効にするには、このホットキーと同じ行にある「Enable」(有効)列のチェックボックスにチェックを入れてください。

アクションを実行するホットキーを変更するには、下記の手順に従って操作を行ってください。

1. 「Hotkeys」(ホットキー)タブ以外のメニューを操作している場合は、「Hotkeys」(ホットキー)タブを開いてください。
2. 対象となるアクションをリストから選択し、「Set Hotkey」(ホットキーの設定)ボタンをクリックして

ください。



3. マクロキーとして使用するファンクションキーを一つずつ押してください。押されたキーの名前が「Hotkey」(ホットキー)欄に表示されます。
 - ◆ キー入力の順番が異なる場合に限り、同じファンクションキーを2つ以上のアクションに使用することができます。
 - ◆ ホットキーの設定をキャンセルする場合は「**Cancel**」(キャンセル)ボタンをクリックしてください。また、アクションの「Hotkeys」(ホットキー)欄を消去するには「**Clear**」(クリア)ボタンをクリックしてください。
4. マクロキーの入力が完了したら、「**Save**」(保存)ボタンをクリックしてください。

ホットキーの設定をすべてデフォルト値にリセットするには、「**Reset**」(リセット)ボタンをクリックしてください。

ホットキーのアクションの内容は下表のとおりです。

アクション	説明
Exit Remote Location (リモート操作の終了)	KVM over IP コンソールステーションとの接続を終了し、コンソールステーションのメイン画面に戻ります。これは、ツールバーの設定アイコンのメニューにある「Back」(戻る)オプションをクリックする操作に相当します。デフォルトでは、[F2][F3][F4]に設定されています。
Adjust Video (ビデオの調整)	「Video Settings」(ビデオ設定)ダイアログを起動します。これは、ツールバーのビデオ設定アイコンをクリックする操作に相当します。デフォルトでは[F5][F6][F7]に設定されています。

(表は次のページに続きます)

アクション	説明
Adjust Mouse (マウスの調整)	ローカルとリモートのマウスを同期します。デフォルトは[F8][F7][F6]に設定されています。
Video AutoSync (ビデオの自動同期)	ビデオを自動同期します。これは、ビデオ設定ダイアログの「Video Auto Sync」(ビデオの自動同期)ボタンをクリックする操作に相当します。デフォルトでは[F6][F7][F8]に設定されています。
Show/Hide Local Cursor (ローカルカーソルの表示/ 非表示)	ローカルマウスのポインターの表示をOFFまたはONに切り替えたり、非表示にしたりします。これは、ツールバーの設定アイコンにある「Mouse Pointer」(マウスポインター)でポインターの種類から「Single」(シングル)を選択する操作に相当します。デフォルトでは[F4][F5]に設定されています。

ユーザーマクロ

ユーザーマクロは、特定のアクションをリモートサーバー側で実行する場合に使用します。マクロを作成するには以下の手順に従って操作を行ってください。

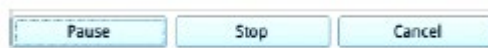
1. 「Macros」(マクロ)タブではないメニューを操作している場合は、「Macros」(マクロ)タブを開いてください。



2. 「User macros」(ユーザーマクロ)ラジオボタンを選択し、「+」マークをクリックしてください。



3. 新しいマクロはデフォルトで「New Macro」という名前で作成されますので、必要であれば、ダイアログでこの名前を変更してください。
4. 「Set Macro」(マクロの設定)をクリックしたら、「Record」(記録)ボタンをクリックしてください。ダイアログボックスが終了し、画面左上に下図のような小さいパネルが表示されます。



5. マクロキーを押してください。
- ◆ マクロの記録を中断する場合は、「Pause」(一時停止)ボタンをクリックしてください。中断していた記録を再開するには、もう一度「Pause」(一時停止)ボタンをクリックしてください。
 - ◆ 「Cancel」(キャンセル)ボタンをクリックすると、キー入力を取り消します。

注意:

1. 大文字/小文字は区別しません。[A]または[a]を入力しても同じ結果となります。
2. マクロとして記録できるのは直接入力時のキーのみです。日本語入力が有効になっている場合の文字は使用することができません。例えば、キーボードが日本語で[A]キーを押した場合、日本語入力が ON になっている場合の[あ]の文字は記録されません。

6. 入力が完了したら「**Stop**」(停止)ボタンをクリックしてください。そうすると、マクロキーとして使用するキーが「**Macros**」(マクロ)列に表示された状態で「**Macros**」(マクロ)ダイアログに戻ります。



7. 入力キーを変更する場合は、対象となるマクロを選択し、「**Set Macro**」(マクロの設定)をクリックしてから「**Edit**」(編集)ボタンをクリックしてください。このボタンをクリックするとダイアログボックスが表示されるので、入力キーの種類や順番を変更することができます。

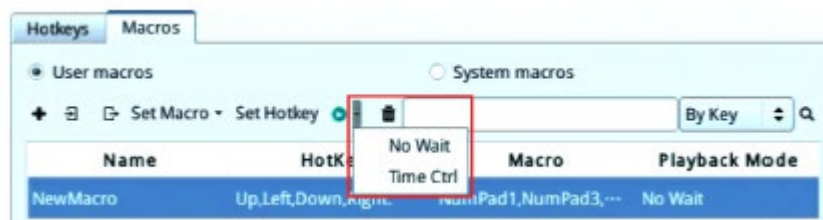


8. 変更内容を保存するには「**Save**」(保存)を、変更内容を破棄する場合は「**Cancel**」(キャンセル)を、それぞれクリックしてください。どちらのオプションを選択した場合も、「Macros」(マクロ)ダイアログに戻ります。
9. 他のマクロを作成する場合は、上記の手順を繰り返してください。

作成したマクロは、下記のいずれかの方法で実行することができます。

1. アクションに割り当てられたホットキーを使用する(ホットキーを割り当てている場合)。
2. このダイアログで再生する。

このダイアログボックスからマクロを実行する場合、マクロの実行方法を指定することができます。「▼」マークをクリックして、オプションを選択してください。

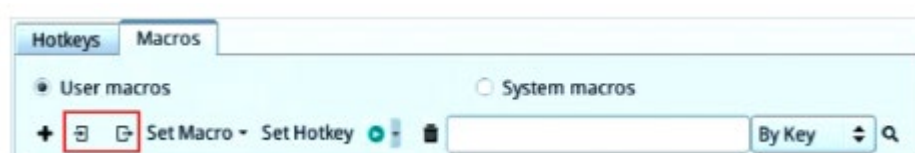


- ◆ 「No Wait」(すぐに再生)を選択した場合、マクロは入力キー遅延時間なしで実行されます。
- ◆ 「Time Ctrl」(タイムコントロール再生)を選択した場合、マクロを記録した際のキー入力とその時のキー入力時間の間隔を再現しながら実行します。
- ◆ 一覧を開かずに「**Play**」(再生)ボタンをクリックすると、マクロはデフォルトの方法で実行されます。デフォルトの値(すぐに実行またはタイムコントロール)が「Playback Mode」(再生モード)列に表示されます。

デフォルトの選択方法は、現在の選択内容(すぐに実行またはタイムコントロール)をクリックし、別の値を選択することで、変更することができます。

マクロのインポート/エクスポート

マクロのインポートやエクスポートは、USB フラッシュメモリを使って実行することができます。

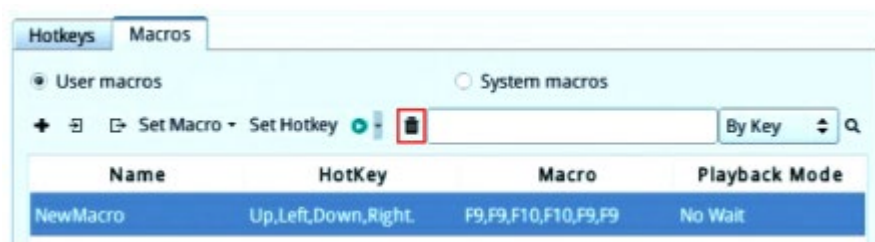


- ◆ インポートのアイコン()をクリックすると、USB フラッシュメモリからインポートするマクロを検索します。

- ◆ エクスポートのアイコン()をクリックして名前を入力すると、マクロを USB フラッシュメモリに保存します。

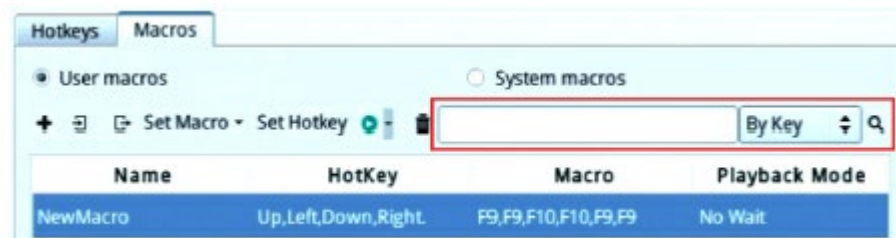
マクロの削除

マクロを削除するには、対象となるマクロを選択してから、下図の赤枠の部分にあるゴミ箱マークをクリックしてください。



マクロの検索

(ダイアログボックスの右上にある)検索機能を使うと、一覧に表示されているマクロからアイテムを絞り込むことができます。(虫眼鏡アイコンの隣にある)ドロップダウンの矢印をクリックして、検索したい条件を選択してください。検索条件として使用できるのは、名前、キー、または検索文字列です。そうしたら、**検索**マーク(虫眼鏡アイコン)をクリックしてください。この条件に合致するものがすべて、上部パネルに表示されます。



システムマクロ

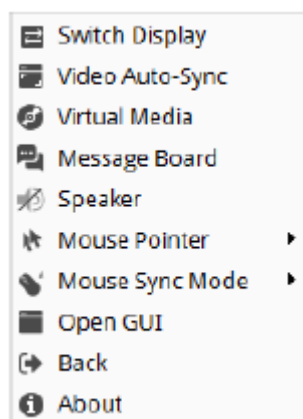
システムマクロはセッション終了時に実行される終了マクロを作成する際に使用します。例えば、[Windows] + [L]キーをログアウト時に実行するマクロを作成しておくと、ユーザーがその後にデバイスにアクセスした際には必ずリモートデバイスのログイン画面を表示することができるので、セキュリティを強化することもできます。

システムマクロの作成、削除、検索の各方法は、ユーザーマクロと同様ですので、p.91「ユーザーマクロ」のセクションを参照してください。なお、システムマクロは、インポートやエクスポートすることができません。

各 IP-KVM スイッチのシステムマクロに関する詳細は、その製品のユーザーマニュアルを参照してください。

詳細設定

設定アイコンをクリックすると、より多くの設定オプションが表示されます。



項目	説明
Switch Display (表示切替)	この項目は、デュアルディスプレイ対応モデル (KA8278 または KA8288) を使用し、なおかつディスプレイを 2 台使用している場合に表示され、2 台のディスプレイ間で表示を切り替えることができます。 注意: カスケード接続におけるマルチスクリーンコントロール機能を有効にしている場合、この機能は動作しません。
Video Auto-Sync (ビデオ自動同期)	ビデオとマウスの自動同期機能を実行します。これは「Video Options」(ビデオオプション) ダイアログボックスにおける「Auto-sync」(自動同期) ボタンをクリックしたときと同じ機能を実行します (詳細は p.87「ビデオ設定」を参照)。
Virtual Media (バーチャルメディア)	「Virtual Media」(バーチャルメディア) ダイアログを表示します。詳細は p.97「バーチャルメディア」を参照してください。 注意: この機能が無効になっている場合や利用できない場合には、アイコンがモノクロ表示されます。
Message Board (メッセージボード)	メッセージボードを起動します。(p.99「メッセージボード」参照)。

(表は次のページに続きます)

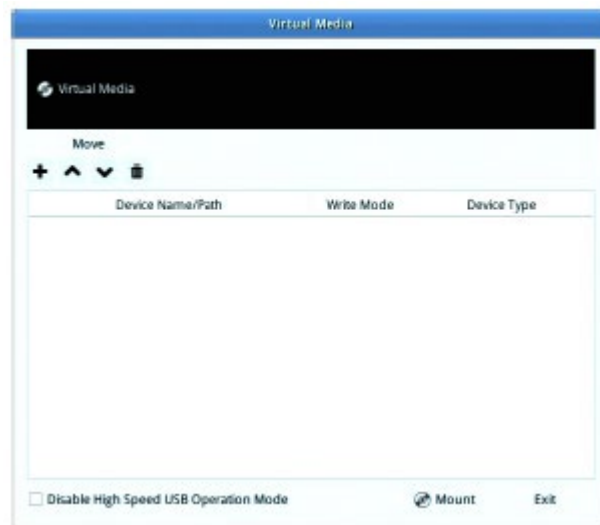
項目	説明
Speaker (スピーカー)	この項目をクリックすると、リモートサーバーの音声を、クライアント側のコンピュータで ON にしたり OFF にしたりすることができます。スピーカーが OFF になっている場合、この項目はグレーで表示されます。なお、KA8278/KA8288 は、接続されているソースのうち片方の音声しか伝送することができません。
Mouse Pointer (マウスポインター)	マウスポインターの種類を選択します。 注意: メイン GUI 画面で利用可能なポインターは、「Dual」(デュアル)と「Crosshairs」(十字)のみです。ポートの画面では、3 種類のマウスポインターがご利用いただけます。
Mouse Sync Mode (マウス同期モード)	この項目をマウスで選択すると、マウス同期モードを選択することができます。この機能に関する詳細は p.102「マウス同期モード」を参照してください。
Open GUI (GUI を表示)	接続されている IP-KVM スイッチの GUI メニューを表示します。詳細については、お使いになっている IP-KVM スイッチのユーザーマニュアルをご参照ください。
Back (戻る)	この項目をクリックすると、この画面を表示する直前にアクセスしていた KVM over IP コンソールステーションの画面に戻ります。
About (製品について)	この項目をクリックすると、この接続に関する情報が表示されます。このとき表示されるのは、デバイス名、IP アドレス、現在のポート、ビデオモード、およびチャンネル/ユーザー番号です。

バーチャルメディア

バーチャルメディア機能を使うと、ユーザーシステム側の USB リムーバブルディスク、またはスマートカードリーダーをリモートサーバーでマウントして使用することができます。

バーチャルメディアをマウントするには、下記の手順に従って操作を行ってください。

1. バーチャルメディアアイコンをクリックして、「Virtual Media」(バーチャルメディア)ダイアログボックスを表示してください。



2. 「+」マークをクリックしてメディアソースを選択してください。



3. フルスピード USB にしか対応していないデバイスの場合は、「Disable High Speed USB Operation Mode」(ハイスピード USB 操作モードを無効にする)の項目にチェックを入れてください。
4. メディアソースを追加するには、「+」マークをクリックして、メディアソースを必要なだけ追加してください。最大 2 台のバーチャルメディアを追加でマウントすることができます。また、リストの 1～3 行目のアイテムは、選択されたバーチャルメディアであることを表しています。なお、バーチャルメディアとスマートカードリーダーは同時にマウントすることができます。選択された項目の順番を入れ替える場合は、移動させたいデバイスを選択し、上下の矢印ボタンをクリックして順序を決定してください。

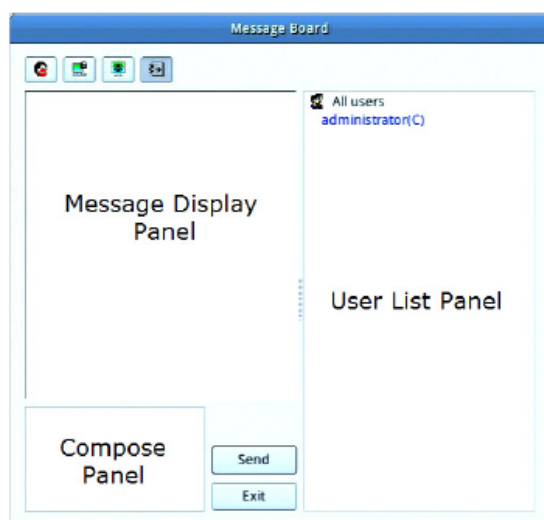
5. 「Read」(読込)はリモートサーバーにデータを送信することのできるリダイレクトされたデバイスを、また「Write」(書込)はリモートサーバーからのデータが書き込み可能な状態になっているリダイレクトされたデバイスをそれぞれ指しています。リダイレクトされたデバイスの読み取りと書き込みを同時に許可したい場合は、「Enable Write」(書込を有効にする)の項目にチェックを入れてください。

注意: リダイレクトされたデバイスに書き込みができない場合、リスト中ではグレーで表示されます。

6. リストから項目を削除する場合は、対象となる項目を選択してから、ゴミ箱マークをクリックしてください。
7. メディアソースの選択後に「Mount」(マウント)ボタンをクリックすると、ダイアログは終了します。この時、選択されたバーチャルメディアのデバイスがリモートシステムにリダイレクトされ、リモートシステムのファイルシステムで認識されます。
デバイスがマウントされると、そのデバイスをリモートサーバーのメディアと同じように扱うことができるので、ファイルのドラッグやドロップを行ったり、リモートシステムのファイルを開いて編集後にリダイレクトされたデバイスに保存したりすることもできます。
8. リダイレクトを終了する場合は、コントロールパネルを起動してバーチャルメディアのアイコンをクリックしてください。マウントされたデバイスはすべて自動的にマウントが解除されます。

メッセージボード

KVM over IP コンソールステーションはマルチユーザーログインに対応しておりますが、一方で、複数ユーザーによる操作の競合を起こす可能性があります。この問題を避けるために、ユーザー同士でコミュニケーションを取ることができるメッセージボード機能を提供しております。



ボタン

ボタンバーにあるボタンはアクションを交互に切り替えるトグルボタンです。各ボタンの機能は下表のとおりです。

ボタン	機能
	チャット機能を有効/無効にします。チャット機能が無効になっている場合、このボードに書き込まれたメッセージは表示されません。また、この場合、このボタンは網がけされた状態になります。ユーザーリストパネルのユーザーネームの横にこのアイコンが表示されている場合、そのユーザーがチャット機能を無効にしていることを表しています。
	キーボード・ビデオ・マウスを占有/開放します。あるユーザーが KVM を占有している場合、他のユーザーは画面の参照およびキーボード・マウスの操作ができなくなります。また、この場合、このボタンは網がけされた状態になります。ユーザーリストパネルのユーザーネームの横にこのアイコンが表示されている場合、そのユーザーが KVM を占有していることを表しています。
	キーボード・マウスを占有/開放します。あるユーザーがキーボード・マウスを占有している場合、他のユーザーは画面の参照は可能ですが、キーボード・マウスの操作ができなくなります。また、この場合、このボタンは網がけされた状態になります。ユーザーリストパネルのユーザーネームの横にこのアイコンが表示されている場合、そのユーザーがキーボード・マウスを占有していることを表しています。
	ユーザーリストの表示/非表示を切り替えます。ユーザーリストを非表示にすると、ユーザーリストパネルが終了します。ユーザーリストが表示されている時、このボタンは網がけされた状態になります。

メッセージ表示パネル

ユーザーがメッセージボードに書き込んだメッセージはシステムメッセージと同様、メッセージ表示パネルに出力されます。ただし、チャット機能を無効にしている場合は、ボードにメッセージが書き込まれても表示されません。

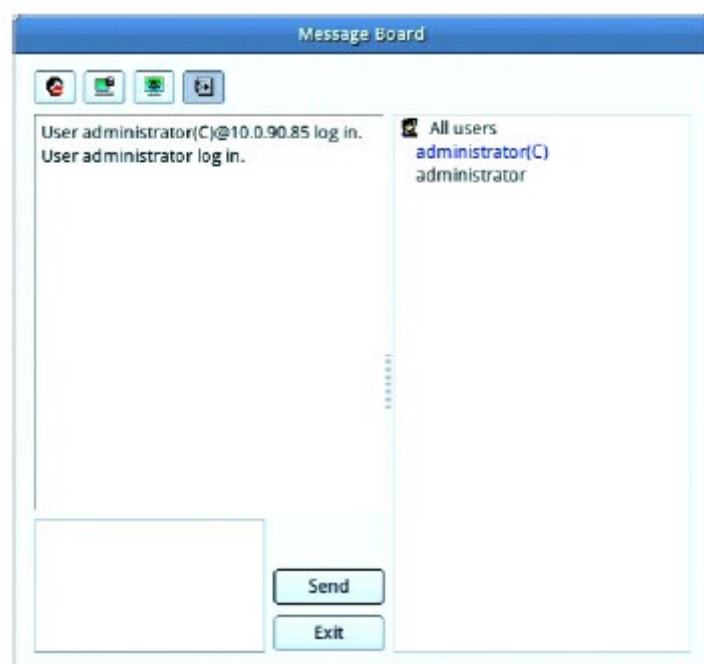
メッセージ編集パネル

メッセージを送信したい場合は、このメッセージ編集パネルに内容を入力して、「Send」(送信)ボタンをクリックしてメッセージを投稿してください。

ユーザーリストパネル

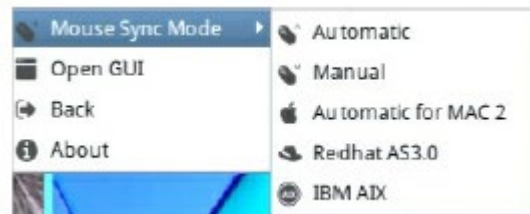
現在ログイン中の全ユーザーのユーザーネームが、このパネルに表示されます。

- ◆ 自身の名前は青色で、その他のユーザーの名前は黒色でそれぞれ表示されます。
- ◆ デフォルトの設定では、メッセージはすべてのユーザー宛に送信されます。特定のユーザー宛にメッセージを送信したい場合は、宛先となるユーザーを選択してからメッセージを送信してください。
- ◆ 一旦、あるユーザーの名前が選択された状態で再び全員宛にメッセージを送信したい場合は、「All Users」(すべてのユーザー)を選択してからメッセージを送信してください。
- ◆ ユーザーがチャット機能を無効にしている場合、機能を無効にしていることを示すアイコンがそのユーザーの名前の前に表示されます。
- ◆ ユーザーがキーボード・ビデオ・マウス、またはキーボード・マウスを占有している場合、デバイスを占有していることを示すアイコンがそのユーザーの名前の前に表示されます。



マウス同期モード

ローカルとリモートのマウスポインターの同期は、自動と手動のどちらでも行うことができます。



マウスの自動同期

この機能を使用すると、リモート/ローカルマウスのポインターを自動的に同期するので、定期的にマウスの再同期を行う手間が軽減されます。

手動設定によるマウス同期

ローカルとリモートのマウスポインターが同期を失った場合、いくつかの方法で再同期することができます。

1. ビデオ調整機能の「**Auto Sync**」(自動同期)を実行してください(詳細はp.87「ビデオ設定」を参照)。
2. 「**Adjust Mouse**」(マウス調整)ホットキーを使用して「Adjust Mouse」(マウス調整)機能を起動してください(詳細は p.91「マウスの調整」を参照)。
3. 製品に接続されているコンピューターのうち、マウスの同期に問題あるものを対象に、マウスポインターのオプション(速度、精度)の設定を行ってください。手順の詳細は、お使いになっている IP-KVM スイッチのユーザーマニュアルを参照してください。

Mac/Linux 環境の場合

- ◆ Mac(10.4.11 以降)をお使いの場合、別の方法で同期設定を行うことができます。デフォルト設定の同期方法では満足いく結果が得られなかった場合は、「**Mac 2**」の設定をお試しください。「Mac 2」の項目を選択する場合は、詳細設定アイコンをクリックしてから、「Mouse Sync Mode」(マウス同期モード)→「Automatic for Mac 2」(Mac2 用に自動同期)を選択してください。
- ◆ Linuxをお使いの場合、同期モードはサポート対象外ですが、マウスシンクモードメニュー(Red hat AS3.0)の設定を行うことで同期が可能です。USB タイプのコンピューターモジュールをお使いで、デフォルトのマウス同期の方法では満足いく結果が得られなかった場合は、Red hat AS3.0 の設定をお試しください。ただし、上記のいずれの場合においても前のセクションに記載されている手動によるマウス同期の方法で設定を行う必要があります。

付録

製品仕様

機能	KA8270	KA8278	KA8280	KA8288
接続				
ビデオ	D-sub15 ピン メス×1	D-sub15 ピン メス×1 HDMI メス×1	HDMI メス×1	HDMI メス×2
RS-232	DB-9 ピン オス×1			
電源	DC ジャック×1			
オーディオ	オーディオジャック メス×2			
LAN ポート	RJ-45 メス×1			
キーボード	USB Type-A メス×1			
マウス	USB Type-A メス×1			
USB ポート	USB Type-A メス×2			
カスケードポート	RJ-45 メス×1			
LED				
電源	1 (Blue)			
スイッチ				
電源	プッシュボタン×1			
リセット	ピンホール型スイッチ×1			
ビデオ	1920×1200 @60Hz			
電源入力				
電源アダプター	型番:0AD8-8005-40MG 入力:100V～240V 出力:DC5V;4A			
消費電力	DC 5V、4.66W	DC 5V、6.53W	DC 5V、4.66W	DC 5V、6.53W
動作環境				
動作温度	0～40℃			
保管温度	-20～60℃			
湿度	0～80% RH、結露なきこと			

(表は次のページに続きます)

機能	KA8270	KA8278	KA8280	KA8288
ケース				
ケース材料	メタル			
重量	0.75 kg	0.8 kg	0.75 kg	0.8 kg
サイズ(W×D×H)	175×156×29 mm			
同梱品	電源アダプター×1 電源ケーブル×1 ラックマウントキット×1 フットパッド(4pcs)×1 クイックスタートガイド×1			

トラブルシューティング

操作全般

問題	解決法
与えられたアカウントでログインできない。	- 正しいユーザーネームとパスワードを使用していることを確認してください。 - 管理者によって、KVM over IP コンソールステーションの操作に必要な操作権限が与えられていることを確認してください。
突然ネットワークの通信が遮断される。	KVM over IP コンソールステーションとのセッションを終了し、30 秒程度待機してから再ログインしてください。
クライアントコンピューターの表示に歪みが見られ、自動同期を実行しても解決しない。	解像度の異なるコンピューターが接続されているポートに一旦切り替えてから、元のポートを表示し直してください。 この方法でも解決しない場合は、そのポートに接続されているコンピューターの解像度とリフレッシュレートを変更してください。変更し終わったら、新しい解像度に設定することも、元の解像度に戻すことも可能です。
使用しているユニットが IP インストーラーのデバイスリストに表示されない。	◆ 自動検出機能が正しく動作するように、お使いのスイッチやルーターでブロードキャスト機能が有効になっていることをご確認ください。 ◆ 自動検出機能が正しく動作するように、お使いのファイアーウォールやウイルス対策ソフトを一時的に無効にしてください。 ◆ お使いの over IP ユニットと PC が同一のネットワークセグメントにセットアップされていることをご確認ください。

マウス

問題	解決法
マウスやキーボードの操作に対する反応がない。	コンソールポートからマウスやキーボードのコネクターを一旦外して、接続し直してください。
マウスの動きが極端に遅い。	データの転送量が多いため、接続処理が追い付けない状態になっています。画質を下げる(p.87 参照)と、ビデオデータの転送量を減らすことができます。
サーバーに接続すると、マウスポインターが 2 つ表示される。	ポインターの種類は変更することができます。詳細については p.97「Mouse Pointer (マウスポインター)」をご参照ください。
なぜデュアルポインターモードがあるのか？	マウス同期モードでない場合、サーバーとクライアントコンピューターの各マウスポインターの位置を確認するために 2 つのポインターが必要です。ポインターが 2 つ表示されていないと、マウスの操作中にネットワークのタイムラグによってサーバーのポインターがクライアントコンピューターのポインターの位置からずれる可能性があります。
マウスのポインターが混乱する。	ローカルとリモートの 2 つのマウスポインターが表示されて混乱する場合は、マウス表示の切替機能を使って片方のポインターを小さくすることができます。マウスポインターの種類については p.97「Mouse Pointer (マウスポインター)」を参照してください。

バーチャルメディア

問題	解決法
バーチャルメディアが動作しない。	リモートサーバーのメインボードが USB に対応していないことに起因しています。サーバーのメインボードのファームウェアまたは BIOS に新しいバージョンのものが提供されており、それらが USB に対応している場合は、サーバーのファームウェアや BIOS をアップグレードしてみてください。

パネルレイモード

問題	解決法
パネルレイモードが低解像度のため、画面にはっきりと表示されない。	この現象は、画面がパネルに合うように縮小されることに起因します。画面に表示されるパネル数を減らしてください。

対応 KVM スイッチ

KA8270/KA8278/KA8280/KA8288 がリモートからアクセス/監視/制御できる IP-KVM スイッチの型番は、弊社 Web サイトにてご確認ください。

注意: 本コンソールステーションと併用する IP-KVM スイッチには、v1.6.151 以降のファームウェアバージョンのインストールが必要です。

リモートアクセス/監視に関する制限事項

KA8270/KA8278/KA8280/KA8288 にリモートアクセス/監視機能を付加する場合、リモート操作に利用できるポート数は、その IP-KVM スイッチでサポートされているバス数の制約を受けます。

IP-KVM スイッチでサポートされているバス数を識別するには、型番における最初の数字を参照してください。例えば、KN8164V という製品を使用している場合は、最初に出てくる数字が「8」であるため、サポートされているリモートバス数が 8 であることを表しています。

リモートアクセス

例えば、KN8164V を例に挙げると、この製品でサポートされているリモートバス数は 8 であるため、KN8164V へのリモートアクセスで既に 8 系統のバスが使用されている場合、コンソールステーションからアクセスしようとすると、利用不可であることを表すメッセージが表示されます。

リモート監視

同じく、KN8164V を例に挙げると、この製品に対するリモートアクセスで既に 8 系統のバスが使用されている場合、パネルアレイモードの各パネルには、利用不可であることを表すメッセージが表示されます。